

目 次

〈 繊維情報 〉

・2005年12月の繊維品輸出概況(繊維品全体・原料・織編物・主要二次製品).....	1
・2005年11月の繊維品輸入概況(繊維製品計・糸類・織物類・衣類).....	7
・世界	米国、EUの対中繊維規制品目枠消化状況..... 10
	中国、欧州の木製梱包材規制..... 13
・アジア 中国	2005年1～11月の繊維品貿易・輸出は大幅増、輸入は横ばい..... 14
インドネシア	2005年1～9月の繊維品貿易・輸出は二桁増、輸入は減少推移..... 19
・米州 米 国	2005年11月の繊維品輸入、引続き大幅に増加..... 22
	2005年12月の大手小売店販売、堅調に推移..... 24

〈 組合関係の会議と催事 〉

・(2006年1月)(2006年2月のスケジュール).....	26
---------------------------------	----

〈 組合業務報告 〉

・輸入組合各委員会での2006年輸入見通し策定と2005年度委員会活動報告(輸入).....	28
--	----

〈 お知らせ 〉

・繊維品の包括保険の「保険責任期間終了」と「保険期間延長手続き」(輸出).....	38
・「マケドニア」向け他6カ国の保険引受け方針変更(輸出).....	39
・「貿易実務の基礎-実践編」研修会開催のお知らせ(輸入).....	40
・3月の輸入通関手続相談窓口開設日(輸入).....	41

〈 組合員情報 〉

・組合員情報.....	41
・海外取引照会・展示会案内.....	42



◎ 2005年12月の繊維品輸出概況

I. 繊維品全体の輸出

－前年同月比 11%減の 7 億 5,745 万ドルと 6ヶ月連続の減少－

2005年12月の繊維品輸出は、ドルベースで、前年同月比 11%減の 7 億 5,745 万ドルとなった。2005年上半期は増勢基調で推移してきたが、下半期に入り 6ヶ月連続の減少となっている。

但し、為替は 2004年12月の 103.84 円に対し、2005年12月は 118.64 円と約 14%の急激な円安推移となっていることから、円ベースでは 2%増の 898 億 6,400 万円とドルベースとは逆に増加推移となった。

この結果、2005年のわが国の繊維品輸出は、ドルベースで前年比 3%減の 80 億 7,016 万ドル、円ベースで 1%減の 8,901 億 2,500 万円と、前年の増加から各々微減ではあるが、減少に転じた。

なお、2005年年間の平均為替は 110.16 円で前年比約 2%の円安推移となっている。

<主要地域別輸出>

12月の輸出を主要地域別に見ると、全輸出の 77%を占め、わが国の輸出動向を左右する最大市場の東アジア向けが前年同月比 11%減（前年比 4%減）の 5 億 9,407 万ドルとこの 6ヶ月減少が続いており、この不振が全体の輸出減少の地域的な最大の要因となっている。

東アジアの主要国向けでは、フィリピンが微増、マレーシアが横ばいに止まったが、その他市場は軒並み不振で、最大市場の中国を始め、香港、韓国、台湾、ベトナム、タイ、シンガポール、インドネシアが減少推移となった。中でも、わが国の繊維品輸出を牽引してきた中国が、6ヶ月連続の減少と、後半伸び悩みが続いており、今後の輸出の大きな不安材料となっている。

純輸出市場向けは、シェア 3%の西アジアは、サウジアラビア、アラブ首長国、イランが揃って減少し、全体として 9%減（同 3%減）の 2,795 万ドルと低調な推移となった。

欧米市場も不振で、シェア 8%の EU は 12%減（同 2%減）の 5,427 万ドルと 2桁の減少、シェア 7%の米国は 2%減（同 1%減）の 5,484 万ドルと共に減少推移となった。

<主要商品別輸出>

12月の輸出を主要商品別にみると、まず綿類の輸出は、全体としては、数量で 1%減（同 3%減）、金額で 5%増（同 6%増）と、数量微減の金額増となった。太宗の合繊綿は、数量で 6%増（同 2%減）、金額で 10%増（同 9%増）となった。この内、主力のアクリル綿は、インドネシア、イランは減少したが、最大輸出先の中国が大きく伸び、タイ、韓国も好調で、全体と

繊維品輸出実績(2005年12月)

単位	2005年12月						2005年1月~12月						2004年実績					
	数量	金額		前年同月比		数量	金額		前年同期比		数量	金額		数量	金額			
		百万円	千ドル	数量	ドル		百万円	千ドル	数量	円		ドル	百万円		千ドル			
繊維品総合計	33,508	89,864	757,450	89	89		890,125	8,070,155	97	108	427,993	99,966	900,766	8,330,992	923,956			
原料(綿)合計	5,447	9,800	82,606	99	105	416,325	107,785	978,717	97	106	66,597	23,267	215,237	215,237				
スワブ綿	25,235	2,252	18,979	89	99	63,446	23,495	212,920	95	101	321,629	73,095	675,403	675,403				
合繊綿	3,977	7,310	61,619	106	110	316,748	81,377	739,213	98	111	51,865	8,007	74,063	74,063				
(ポリエステル)	18,774	746	6,286	84	81	45,356	7,902	71,868	87	99	243,538	52,514	485,070	485,070				
(アクリル)	11,866	5,065	42,690	112	115	242,939	59,092	536,513	100	113	135,543	94,082	870,337	870,337				
糸 合計	1,219	8,935	75,315	92	88	132,209	95,134	864,264	98	101	11,482	7,864	72,916	72,916				
人絹糸	17	30	252	53	47	306	430	3,918	82	73	372	591	5,477	5,477				
スワブ糸	9,413	6,684	56,340	92	87	107,120	72,887	662,944	97	99	110,548	73,641	681,155	681,155				
合繊長糸	2,288	1,675	14,122	87	99	23,971	16,878	153,473	87	96	27,504	17,566	162,369	162,369				
(ナイロン)	3,334	1,633	13,760	95	96	39,619	17,695	161,032	97	106	40,805	16,719	154,685	154,685				
(ポリエステル)	358	311	2,621	90	74	4,378	3,565	32,329	76	86	5,733	4,164	38,476	38,476				
合繊短糸	714	525	4,426	119	90	5,539	4,213	38,005	114	109	4,854	3,756	34,881	34,881				
綿 糸	124,059	39,464	332,640	91	81	1,220,280	359,644	3,257,966	94	94	1,295,836	384,270	3,557,638	3,557,638				
織物合計	721	1,178	9,928	94	87	8,261	13,387	121,576	113	101	7,280	13,304	123,079	123,079				
絹織物	7,194	2,635	22,210	92	88	81,049	25,408	230,287	104	95	77,844	26,662	246,677	246,677				
人絹織物	1,278	650	5,482	65	62	12,425	5,168	46,859	76	75	16,372	6,923	64,317	64,317				
スワブ織物	53,336	12,473	105,137	91	82	569,130	121,600	1,100,943	93	94	611,549	129,896	1,201,387	1,201,387				
合繊長織物	5,676	1,335	11,252	98	107	58,693	11,881	107,382	106	106	55,195	11,163	103,187	103,187				
(ナイロン)	40,852	8,944	75,384	89	81	447,759	91,055	824,217	91	93	493,931	98,356	909,292	909,292				
(ポリエステル)	17,293	4,192	35,334	90	81	167,050	39,493	358,090	100	101	166,635	39,208	363,303	363,303				
合繊短織物	39,244	14,668	123,637	92	79	324,416	112,882	1,023,678	92	91	354,304	123,887	1,149,181	1,149,181				
綿織物	4,393	3,167	26,696	83	80	54,198	38,820	350,009	92	92	58,795	42,026	387,539	387,539				
毛織物	58,794	5,389	45,419	108	98	592,985	55,758	505,607	103	108	574,520	51,660	477,610	477,610				
不織布	1,128	190	1,597	75	83	15,300	2,565	23,416	101	117	15,129	2,190	20,254	20,254				
タイヤード織物	1,320	3,562	30,023	88	88	17,585	42,650	387,386	102	104	17,238	41,001	378,474	378,474				
コート織物		7,572	63,822	100	100	66,438	600,666					61,999	573,419	573,419				
ニット生地		3,109	26,207	81	81	40,722	370,175					53,076	489,518	489,518				
アパレル		11,843	99,820	103	103	119,429	1,081,958					112,522	1,039,786	1,039,786				
その他																		

(注) 1. 繊維品総合計は、HS関税分類11部の合計。
 2. 原料(綿)、糸、織物合計は分類番号50類から55類までのそれぞれの合計。
 3. アパレルは61類(ニット製衣類)と62類(布帛製衣類)を合算したもの。 4. その他は、63類及び56類~59類の一部商品。

して、数量で 12%増（同横ばい）、金額で 15%増（同 11%増）と数量、金額共に 2 桁の増加となった。

一方、ポリエステル綿は、中国は健闘したが、タイ、EU、米国が落ち込み、数量で 16%減（同 13%減）、金額で 19%減（同 3%減）となった。

その他の合繊綿では、ビニロン綿は、主力の EU 向けが大幅に増加し、数量で 7%増（同 7%増）、金額で 4%増（同 10%増）となった。

スフ綿は、主力の中国が大幅減となり、インド、パキスタンは健闘したが、数量で 11%減（同 5%減）、金額で 1%減（同 1%減）となった。

糸類の輸出は、数量で 8%減（同 2%減）、金額で 12%減（同 1%減）と、数量、金額共に減少推移となった。

主力の合繊長糸は数量で 8%減（同 3%減）、金額で 13%減（同 3%減）となった。その内訳は、ポリエステル糸は、米国、EU は好調に推移したが、中国を中心とする東アジアが振るわず、数量で 5%減（同 3%減）、金額で 4%減（同 4%増）となった。一方、ナイロン糸も、主要国のタイ、中国、EU が不振で、数量で 13%減（同 13%減）、金額で 1%減（同 5%減）となった。その他の合繊長糸では、ポリウレタン糸は中国、香港等主力の東アジアが振るわず、数量で 20%減（同 9%減）、金額で 38%減（同 22%減）となった。

また、人絹糸は、中国は大きく伸びたが、韓国、EU が不振で、数量で 10%減（同 12%増）となった。但し、単価のアップにより、金額では横ばい（同 20%増）に止まった。

太宗の織物類の輸出は、数量で 9%減（同 6%減）、金額で 19%減（同 8%減）と数量、金額共に引き続き低調な推移となった。

織物の内訳では、中心品目のポリエステル長繊維織物は、数量で 11%減（同 9%減）、金額で 19%減（同 9%減）と数量、金額共に 2 桁の減少となった。

地域的には、全体の 73%を占める東アジア向けは、タイ、スリランカが好調に推移したが、中国を始め、香港、ベトナム、韓国、台湾、インドネシア等その他の主要国は軒並み不振に終わり、東アジア全体として 12%減（同 7%減）となった。

一方、純輸出市場向けは、西アジアは、アラブ首長国が健闘したが、サウジアラビアが大幅減少となり、西アジア全体として 16%減（同 7%減）となった。

欧米市場向けは、EU 向けは 17%増（同 12%減）と久々に量的に増加に転じたが、米国は 17%減（同 29%減）と減少が続いている。

ナイロン織物は、数量で 2%減（同 6%増）、金額で 7%増（同 4%増）と数量微減の金額増となった。シェア 81%の東アジア向けは、主力の中国、香港が減少推移となったが、ベトナム、韓国、台湾が激増し、全体として 1%増（同 10%増）となった。一方、シェア 10%の米国は 10%減（同 6%減）となった。

綿織物は、数量で 8%減（同 8%減）、金額で 21%減（同 11%減）と数量、金額共にこの 5 ヶ月減少が続いている。83%のシェアを占める東アジア向けは、最大市場の中国またシンガポールが健闘したものの、香港、ベトナム、韓国、台湾等その他主要国が減少し、東アジア全体として

6%減（同 7%減）となった。その他の市場では、シェア 10%の米国は 17%減（同 13%減）、シェア 2%の EU は 28%減（同 12%減）と何れも不振に終わった。

ポリエステル短繊維織物は、数量で 8%減（同 2%増）、金額で 19%減（同 1%減）となった。全体の 65%を占める東アジア向けは、ベトナム、シンガポールが大幅増となったが、圧倒的シェアを占める中国が減少、また香港も半減し、東アジア全体として 7%減（同 2%減）となった。一方、シェア 34%の民族衣装用の西アジアは、アラブ首長国、サウジアラビアが共に伸びたが、クエートが半減し、西アジア全体として 9%減（同 12%増）とこの 2 ヶ月の好調から一転して減少推移となった。

人絹織物は、数量で 8%減（同 4%増）、金額で 12%減（同 7%減）と数量、金額共に減少した。シェア 73%の東アジアは、中国が好調に推移したが、香港が大幅に減少し、東アジア全体として 3%減（同 9%増）となった。また、シェア 11%の西アジアは、サウジアラビアは伸びたが、アラブ首長国が減少し、全体として 1%減（同 1%増）の微減となった。一方、欧米市場は、EU が 22%減（同 15%減）、米国が 17%減（同 31%減）と揃って低調な推移となった。

毛織物は、数量で 17%減（同 8%減）、金額で 20%減（同 10%減）と数量、金額共に 2 桁減の不振推移となった。地域的には、東アジアが 97%とほぼ全量を占めている。韓国、台湾は好調に推移したが、圧倒的なシェアを占める持ち帰り用の中国、また香港、ベトナムが減少し、東アジア全体として 13%減（同 8%減）となった。

不織布の輸出は、数量で 8%増（同 3%増）、金額で 2%減（同 6%増）と数量増の金額減となった。全体の 61%を占める東アジアは、中国、香港、タイが健闘したが、韓国が激減、台湾、マレーシアも不振で、全体として 19%減（同 17%減）となった。一方、欧米市場は、シェア 29%の米国は 173%増（同 97%増）とこのところ驚異的な伸びが続き、量的には最大の輸出市場となった。また、シェア 7%の EU は 21%減（同 19%増）と大幅に後退した。

コーテッド織物の輸出は、数量で 12%減（同 2%増）、金額で 12%減（同 2%増）となった。全体の 80%を占める東アジアは、ベトナム、タイが好調に推移したが、大手輸出先の中国、香港が減少推移となり、全体として 14%減（同 1%減）となった。欧米市場は、シェア 6%の米国は 42%減（同 19%増）、一方シェア 5%の EU は 17%減（同 4%減）と共に減少推移となった。

ニット生地の輸出は、数量で 4%減（同 2%増）、金額で横ばい（同 5%増）と数量減の金額横ばいとなった。全体の約 9 割強を占める東アジア向けは、最大市場の中国、韓国、インドネシアは増加推移となったが、香港、台湾、ベトナムが減少推移となった。一方、欧米市場向けは、米国、EU 共に前月に続き大幅な増加推移となった。

アパレルの輸出は、金額で 19%減（同 24%減）と大幅な後退が続いている。

内容的には、布帛製衣類の外衣類は、中国は健闘したが、台湾、米国、EU が不振で、金額で 21%減（同 2%増）となった。下着類は、台湾、香港、中国が揃って不振で、金額で 24%減（同

25%減)と大きく減少した。

一方、ニット製衣類は、ニット製衣類輸出の主力であった香港向けのニットパネル(最終中国で編み立て後米国向け)の輸出が、2005年からの米国の対中国枠の撤廃により、減少が続いている。外衣類は、その香港向けは下げ止まったものの、台湾が半減し、金額で17%減(同46%減)となった。一方、下着類は、中国、韓国が健闘したが、香港、台湾が減少し、3%減(同42%減)となった。

II. 原料(綿・糸)の輸出

<綿輸出>

合繊綿、スフ綿などの綿合計は、主要品目では主力のアクリル綿及びビニロン綿が増加推移となったが、ナイロン綿、ポリエステル綿、スフ綿がいずれも2桁の減少となり、全体では1%減の33,508トン(1~12月累計:416,325トン、前年比3%減)、金額については5%増の8,261万ドル(同9億7,872万ドル、6%増)となった。

<糸輸出>

糸は綿糸が増加推移となった他は、主力の合繊長繊維糸をはじめ全般的に低調な推移となり、全体では8%減の11,866トン(132,209トン、2%減)、金額についても12%減の7,532万ドル(8億6,426万ドル、1%減)となった。

2005年12月の原料(綿・糸)の輸出状況

単位:トン、1,000ドル、セント、%

	2005年12月				2005年1~12月			
	数量	前年 同月比	金額	単価	数量	前年 同期比	金額	単価
スフ綿	5,447	89	18,979	348	63,446	95	212,920	336
合繊綿	25,235	106	61,619	244	316,748	98	739,213	233
ポリエステル	3,977	84	6,286	158	45,356	87	71,868	158
アクリル	18,774	112	42,690	227	242,939	100	536,513	221
その他合繊綿	2,484	108	12,643	509	28,454	108	130,832	460
人絹糸	1,219	90	8,673	712	12,825	112	87,856	685
合繊長糸	9,413	92	56,340	599	107,120	97	662,944	619
ナイロン	2,288	87	14,122	617	23,971	87	153,473	640
ポリエステル	3,334	95	13,760	413	39,619	97	161,032	406
その他合長糸	3,792	94	28,458	750	43,530	103	348,439	800
綿糸	714	119	4,426	620	5,539	114	38,005	686

出所:財務省統計

Ⅲ. 織・編物（絹・化合織・綿・毛）の輸出

2005年12月の織物（絹・化合織・綿・毛）の輸出は、ポリエステル（長）織物を始め、綿織物、毛織物の主要織物は、軒並み低調な推移となり、織物トータルで、数量で前年同月比9%減（前年同期比6%減）、金額で19%減（同8%減）となった。

なお、この織物トータルの中に含まれていない、ニット生地、コーテッド織物も低調な推移となった。

市場的には、織物トータルで、主力の東アジアは、主要国では、タイが数量、金額共に前年同月を上回り唯一好調に推移。マレーシアは数量増の金額減、ベトナム、シンガポールは数量横ばいの金額減、最大市場の中国を始め香港、韓国、インドネシア、台湾、シンガポール、フィリピンは数量、金額共に前年同月を下回った。

2005年12月の織・編物の輸出状況

単位：1,000SM、1,000ドル、前年比は数量比%

	2005年12月			2005年1-12月		
	数量	金額	前年同月比	数量	金額	前年同期比
絹織物	721	9,928	94	8,261	121,576	113
人絹織物	7,194	22,210	92	81,049	230,287	104
スフ織物	1,278	5,482	65	12,425	46,859	76
合織（長）織物	53,336	105,137	91	569,130	1,100,943	93
ポリ（長）織物	40,852	75,384	89	447,759	824,217	91
ナイロン織物	5,676	11,252	98	58,693	107,382	106
合織（短）織物	17,293	35,334	90	167,050	358,090	100
ポリ（短）織物	16,071	32,822	92	153,276	330,261	102
綿織物	39,244	123,637	92	324,416	1,023,678	92
毛織物	4,393	26,696	83	54,198	350,009	92
コーテッド織物	1,320	30,023	88	17,585	387,386	102
ニット生地	18,765	63,822	96	181,657	600,666	102

(注) 1. ポリエステル（長）、ナイロン（長）織物は、ポリエステル、

ナイロンの重量が全体の85%以上の織物。

2. コーテッド織物の数量単位はトン。

純輸出市場では、西アジアは、アラブ首長国は数量横ばいの金額減、サウジアラビアは数量、金額共に前年同月を下回った。

一方、欧米市場は、EU は主力のポリエステル（長）織物が量的に増加し、数量増の金額減、米国は各品目共に振るわず、数量、金額共に減少推移となった。

IV. 主要繊維二次製品の輸出

繊維二次製品の 2005 年 12 月の輸出は、金額（ドル）ベース（以下同じ）で、アパレルは総じて振るわず、全体では前年同月比 19%減の 26,207 千ドル（1～12 月累計：370,175 千ドル、前年比 24%減）となった。他方、その他の品目については、敷物及び漁網・その他の網・網地は増加推移となったが、細幅織物・紐類は減少推移となった。

2005 年 12 月の主要繊維二次製品輸出状況

単位：1,000 ドル、金額：前年比%

	2005 年 12 月		2005 年 1～12 月	
	金額	前年同月比	金額	前年同期比
布帛製衣類・付属品	15,238	76	206,726	91
外 衣	8,209	79	123,480	102
下 着	2,989	76	42,549	75
スカーフ・マフラー	767	91	8,092	101
ニット製衣類・付属品	10,969	90	163,449	62
外 衣	3,325	83	56,946	54
下 着	4,537	97	70,589	58
敷 物	2,846	114	32,496	120
漁 網 ・ 網 ・ 網 地	5,442	195	39,517	124
細 幅 織 物 ・ 紐 類	18,750	90	191,191	101

◎ 2005 年 11 月の繊維品輸入概況

1. 繊維製品計

11 月の輸入は、金額が円ベース前年同期比 106.3%（前月比は 92.0%）、ドルベース同 94.2%（前月比は 89.2%）、数量(重量)同 93.7%（前月比は 95.0%）と、円金額が 4 ヶ月連続で増加、ドル金額は 4 ヶ月ぶりに減少、数量は 3 ヶ月連続で減少となった。前月比は、前月同様に秋冬物の輸入ピークを過ぎ金額、数量ともに減少した。

糸類は、数量で前年同期比 19.7%減と前月同様減少幅が拡大し 6 ヶ月連続で減少。内訳は、絹糸のみが増加、毛糸、綿糸、人織(長)糸、人織(短)糸、その他の糸が減少した。織物類は同 3.0%減と 4 ヶ月ぶりに減少。絹織物、黄麻織物、人織(長)織物、メリヤス生地、その他の織物が増加し、毛織物、綿織物、人織(短)織物は減少した。衣類は同 5.4%減と 3 ヶ月連続で減少。衣類を除くインテリア用品等の二次製品は同 2.8%減と 13 ヶ月ぶりの減少となった。

前月は円金額が 6.7%、ドル金額が 1.3%の増加、数量が 0.2%の微減となったが、今月は円金額が 6.3%増加したものの、ドル金額が 5.8%の減少、数量も 6.3%の減少となった。11 月の為替相場は前年同月比で 12.9%円安であった。円金額の内訳を見ると、二次製品が 8.8%の増加、太宗を占める衣類も金額では 6.6%増、織物類も 5.9%増加したが、糸類は 6.4%減少し、繊維製品計では 6.3%の増加となった。

2. うち糸類

- 綿糸の輸入実績は、トンベースで前月比 2.4%減と 6,000 トン台は堅持したものの、前年同月比は 26.9%の大幅減となり 6 月以降連続して下回った。全体の 88%を占める純綿糸の輸入を前月に比較すると国別では、首位のパキスタンが 8 月以降の低水準輸入の反動もあり 18.9%増加となったが、2 位のインドネシアがイスラム教ラマダン月の影響で 23.1%減、3 位の中国 8.9%の増加、4 位のインドが 5.2%減となるなど国によりまだら模様となっている。番手別では、20 番手中心が 28.9%と大きく増加したが 30 番手中心が 24.7%、40 番手以上も 7.7%の減少となった。
- 毛糸の輸入実績は前年同月比重量ベース 12.9%減と 13 ヶ月ぶりの増加となった前月から再び減少に転じた。糸種別に見ると、紡毛糸の輸入が同 23.5%減と 3 ヶ月ぶりに減少となり、太宗を占める梳毛糸も同 12.4%減となった。国別では、トップシェアの中国が同 0.6%減と僅かながらではあるが 2 ヶ月ぶりに減少し、次ぐマレーシアも同 25.5%の大幅減となった。この他では、台湾、タイ、インド、ペルー等主要国からの輸入が減少したなか、イタリアからの輸入は増加した。
- 人織糸の輸入実績は、トンベースで人織(長)糸が前月比 9.4%減、前年同月比も 17.3%のマイナスとなり前年同月比は 5 ヶ月連続で下回った。主要商品を前月に比べると、主力の台湾などからのポリエステル糸が 5 ヶ月ぶりマイナスの 6.7%、台湾、インドネシアからのナイロン糸も 5 ヶ月ぶりの 19.6%減、量的に少ない人絹糸 20.2%のマイナスとなるなど軒並み前月を下回った。一方、人織(短)糸は、主力商品の T/C,T/R 糸でインドネシア、などからのポリエステル紡績糸は 5.7%減、中国、インドネシアからのマイヤー毛布用のアクリル紡績糸 13.4%、ガムテープ用のスフ糸も 3.6%の減少となるなど軒並みマイナスとなり、全体では前月比 8.6%の減少、前年同月比は 18.8%マイナスと 22 ヶ月連続で下回った。

3. うち織物類

- 綿織物の輸入実績は、面積ベースで綿織物需要の最盛期でもあり前月比 3.7%の増加となったが、前年同月比は寝装向け商品の中国での一貫生産の定着もあり 2 ヶ月連続マイナスの 11.3%減となった。国別で前月に比較すると、全体の 8 割強を占める中国が 5.7%増、2 位のインドネシアからの輸入が 36.1%の減少となったが、厚地織物のパキスタンは 30.0%の大幅増となった。品種別にみると、主力のポプリンが 6.1%、金巾 32.1%の減少となったが粗・細布は 19.1%の増加となった。
- 毛織物の輸入実績は、面積ベースで前年同月比 12.3%減と、2 ヶ月ぶりに増加した前月から再び減少した。イタリアからの輸入が同 15.9%増と 2 ヶ月連続で増加したものの、中国からの輸入が前月の大幅増から一転し 22.6%の大幅減となった。品種別では、紡毛織物が同 7.4%減と 6 ヶ月連続減少したのに加えて、主力の梳毛織物も前月大幅増の反動から同 12.5%の大幅減少となった。
- 人織織物の輸入実績は、面積ベースで人織(長)織物が前月比 2.3%の減少となったものの、前年同月比は 4.0%の増加となり 13 ヶ月連続のプラスとなった。品目別に前月に比較すると主力商品のポリエステル織物が 6.0%減、量的に少ないナイロン織物が前月年内最高の輸入量であった反動もあり 34.6%の大幅減少となったものの、ポリプロピレン等其他織物は 12.2%の 5 ヶ月連続増加となった。国別にみると、首位の韓国はポリプロピレン等 other 織物が増加したことにより 9.7%のプラス、2 位の中国も同様に 4.4%のプラスとなったが、台湾などのその他は大きく後退した。一方、人織(短)織物は主力の T/C 織物が 18.3%減となったもののスフ織物が 20.0%増と大きく伸びたことにより前月比では 3.7%の増加となったが、前年同月比では T/C 織物の落ち込みが大きいこともあり 12.6%のマイナスとなった。

4. うち衣類

ニット製衣類が対前年同月比枚数で 0.8%減、布帛製衣類も同 1.0%減、身の廻り品も重量ベース 6.1%減となり、衣類計では重量ベース 5.4%減となった。ニット製衣類が 4 ヶ月ぶりに減少、布帛製衣類は 2 ヶ月ぶりに減少、身の廻り品は 2 ヶ月連続で減少し、衣類計は 3 ヶ月連続で減少となった。

主要国別に見ると

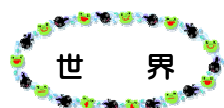
- 中国は、対前年同月比枚数ベースでニット製衣類が 1.3%減少し 2 ヶ月連続で減少、布帛製衣類も 0.9%減少し 2 ヶ月ぶりに減少、身の廻り品も重量ベース 4.9%減で 2 ヶ月連続の減少となった。今年 1 月から 11 月までの累計の衣類計（重量ベース）のシェアは 91.4%となった（金額ベースでのシェアは 81.9%）。
- 韓国はニット製衣類が同 6.5%増加、布帛製衣類も 78.4%増となり 8 ヶ月連続で大幅に

増加した。ニット製衣類が 2 ヶ月連続の増加、布帛製衣類も 8 ヶ月連続で増加した。

- ▶ イタリアはニット製衣類が同 37.9%減と 11 ヶ月連続で減少、布帛製衣類も 17.6%減と 6 ヶ月連続で減少。
- ▶ ベトナムはニット製衣類が同 29.5%増と 7 ヶ月続けて増加、布帛製衣類も 1.5%増と 2 ヶ月連続で増加した。
- ▶ 商品別には、ニット製衣類ではコート、スーツ、アンサンブル、ジャケット、ドレス、スカート、スポーツウェアが増加、アウターシャツ、セーターが減少、ズボン、下着類はほぼ横這い。布帛製衣類では紳士用はジャケット、ズボンが増加、コート、スーツ、アンサンブル、下着類が減少、婦人用ではジャケット、ブラウスが増加、コート、スーツ、アンサンブル、ズボン、下着類が減少、スカートはほぼ横這いとなった。

前月は数量が 0.2%の微減、金額は円が 6.7%、ドルが 1.3%それぞれ増加したが、今月は数量が 6.3%の減少、金額は円が 6.3%の増加、ドルが 5.8%の減少となった。円金額の増加は 12.9%円安によるもの。

景況感が改善したのに加え 11 月からの全国的な冷え込みで、重衣料を中心にマーケットは徐々に活況を呈している。冬物は商品ストックが底を尽き、一部店頭では商品に品薄感が出るなど百貨店をはじめ嬉しい悲鳴が聞こえている。防寒衣料商品を中心に追加発注が入っており、来月以降は追加オーダーによる輸入の底上げが予想される。



◎ 米国、EUの対中繊維規制品目枠消化状況

2006 年 2 月 1 日現在の米国の対中規制品目の消化状況は、以下の表の通りであるが、船積期間のタイムラグもあり、規制開始から 1 ヶ月の消化率は総じて余り伸びていない。

また、2006 年 1 月 25 日付けで発表された EU の統計による、対中規制品目枠に対する、EU 側の I / L 発給量、中国の E / L 発給量は次の表のとおり。これによると、到着日の関係もあり、I / L 発給量の消化率は未だ低位に止まっているが、E / L 発給量の消化率は既に 2 桁に達しているか、それに近い品目が多く、今後の動向が注目される。

◎ 米国の対中繊維規制品目枠消化状況（2006年）：（2006.2.1.現在）

	Ca. No.	商品名	単位	規制枠	輸入実績	消化率	備考
1	200/301	綿・化繊縫い糸、コームした綿糸	kg	7,529,582	6.44	0.0%	
2	222	綿・化繊ニット生地	kg	15,966,487	100,721	0.6%	
3	229	綿・化繊製特殊用途織物	kg	33,162,019	78,571	0.2%	
4	332/432/632ptt 332/432/632pt b	綿・毛・化繊製靴下及び乳幼児用靴下 上記の内枠（長靴下を除く）	dp dp	64,386,841 61,146,461	2,491,750 2,459,065	3.9% 4.0%	
5	338/339pt	綿製男子用ニットシャツ及び女子用ニットシャツ、ブラウス	dz	20,822,111	220,675	1.1%	
6	340/640	綿・化繊製布帛男子・男児シャツ	dz	6,743,644	161,221	2.4%	
7	345/645/646	綿・化繊製男女セーター	dz	8,179,211	27,710	0.3%	
8	347/348	綿製男子・女子用ズボン	dz	19,666,049	394,277	2.0%	
9	349/649	綿・化繊製ブラジャー	dz	22,785,906	202,504	0.9%	
10	352/652	綿・化繊製下着	dz	18,948,937	194,559	1.0%	
11	359s/659s	綿・化繊製水着	kg	4,590,626	80,299	1.7%	
12	363	綿製テリー及びパイラルオル	no	103,316,873	219,799	0.2%	
13	443	毛製男子・男児用スーツ	no	1,346,082	544	0.0%	
14	447	毛製男子・男児用ズボン	dz	215,004	1,043	0.5%	
15	619	ポリエステル長繊維織物	m ²	55,308,506	99,397	0.2%	
16	620	その他合繊長繊維織物	m ²	80,197,248	102,213	0.1%	
17	622	グラスファイバー織物	m ²	32,265,013	19,248	0.1%	
18	638/639pt	化繊製男子ニットシャツ及び女子ニットシャツ、ブラウス	dz	8,060,063	127,868	1.6%	
19	647/648pt	化繊製ズボン	dz	7,960,355	225,159	2.8%	
20	666pt	化繊製窓用ブラインド及びシェイド	kg	964,014	801	0.1%	
21	847	絹混紡・交織及び麻等のズボン	dz	17,647,255	318,938	1.8%	

(出所：OTEXA)

◎ EUの対中繊維製品目録消化状況(2006年):1月25日現在

Ca. No	単位	品目詳細	枠	I/L発給量	枠消化率 (%)	E/L発給量	枠消化率 (%)	備考
2	トン	綿織物 (ガーゼ、テリー、細幅、パイル、シエニール、チュール及びその他ネット生地を除く)	61,948	744	1.2	5,966	9.6	
4	1000枚	ニット製下着(シャツ、T-シャツ、ポロ、プルオーバー(毛製は除く))	540,204	9,739	1.8	49,072	9.0	
(4C)	1000枚	上記4の内枠(子供用)	45,017	505	1.1	4,472	9.9	
5	1000枚	ニット製ジャージー、プルオーバー、カーディガン、ジャンパー、アノラック	188,719	2,548	1.3	8,940	4.7	
6	1000枚	布帛製男子用パンツ、ショーツ、ブリーフ(水泳パンツ、ズボンを除く)、女性用ズボン、スラックス	338,923	4,958	1.5	24,951	7.4	
7	1000枚	女性用ブラウス、シャツ、半袖ブラウス	80,493	1,835	2.3	6,620	8.2	
20	トン	布帛製ベッドリネン	15,795	324	2.1	1,673	10.6	
26	1000枚	女性用ドレス	27,001	649	2.4	2,141	7.9	
31	1000枚	ブラジャー	219,882	6,754	3.0	20,598	9.4	
39	トン	テーブルリネン、トイレットリネン、キッチンリネン(綿製テリータオルは除く)	12,349	135	1.1	696	5.6	
115	トン	フラックス・ラミー糸	4,740	21	0.4	481	10.1	

(注) I/L発給量はEU当局、E/L発給量は中国当局

(出所) EU統計局(SIGL)

◎ 中国、欧州の木製梱包材規制

<中国>

○ ISPM No. 15 基準の輸入規制、6ヶ月の猶予期間設定

日本荷主協会が入手した情報によると、中国は植物防疫国際基準 ISPM No. 15 基準の新木製梱包材輸入規制について、2006年1月1日から6月30日までの6ヶ月間、本格導入までの猶予期間を設定した。期間内は違反貨物に対し厳罰ではなく、状況に応じた措置をとる。中国の新規制導入では日本の丸型マークが問題になっていたが、日本政府は2005年末に角型マークも導入することを決定。中国向け木製梱包材には角型マーク押印が求められており、早急の切り換えが必要となっている。

同規制の認証マークは昨年、中国政府が2006年1月1日到着の貨物から導入する方針を明らかにする中、農林水産省は既に日本で販売されていた丸いマークの認証スタンプを認めるよう交渉を行っていた。中国が規制を施行する直前の昨年12月22日、日本側は角型のスタンプを新たに導入することを決定。同月28日までに関係各所に無料配布したものの、完全普及は難しいとし、猶予期間を中国側に求めている。

荷主協会によると12月末の導入だったため一部に混乱が起きているが、角型スタンプは国際的に主流となっているため、中国以外の世界各国でも使用できるという。

<欧州>

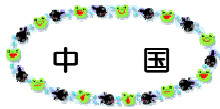
○ DB マーク導入延期

日本荷主協会が入手した情報によると、欧州連合（EU）の欧州委員会（EC）植物衛生常設委員会は1月18日、木製梱包材の樹木の樹皮をはいだことを証明するデバーキング（DB）マークを入れる新規則導入を2008年12月まで延期することを決定した。現在、日本の植物防疫国際基準（ISPM）No.15 基準対応スタンプには、同マークが表示されていない。導入までに3年間の猶予ができたことで今後、スタンプの様式変更などの対応が期待されている。

EUが決めた木製梱包材輸入規制の細則（EU指令2004・102・EC）には、害虫の侵入を防止するための検疫措置として、木製梱包材の樹皮をはいだ木材から作ることを要求する条項が含まれている。具体的には、DBマークを国際植物保護会議（IPPC）基準のスタンプ内のHT（熱処理）やMB（メチルブロマイド薫蒸処理）表示に付随して押す必要がある。

DBマークは過去にも延期された経緯があり、今年3月から導入予定だった。今回の延期では、DBマークをEU以外の国でも導入することをIPPCで検討してもらう意図がある模様。IPPCの森林検疫問題技術審査会は今年7月の会議で、樹皮はぎ問題の技術的正当性を審議する予定。EC健康消費者保護総局は、延期問題を07年9月に再検討する方針。

日本では、中国からの要求に合わせて05年12月末にスタンプの形を丸型から四角に変えたばかりだが、新スタンプにもDBマークが入っていない。



◎ 2005年1～11月の繊維品貿易・輸出は大幅増、輸入は横ばい

【輸出】

－22%増の981億1,546万ドル、11月単月は16%増－

中国の海関統計によると、2005年1～11月の中国の繊維品輸出は、22%増の981億1,546万ドルとなった。

単月の輸出状況をみると、枠フリーの時代に入り、1月は29%増、2月34%増と大幅に伸び、3月は一旦4%増と大きく減速したが、4月16%増、5月23%増、6月29%増、7月24%増、8月34%増、9月22%増、10月20%増、11月16%増と、依然高率の増加が続いていることに変わりはないが、欧米との貿易摩擦もあり、8月をピークとして伸びは大幅に鈍化している。

<品目別輸出状況>

品目別では、中国の繊維品輸出全体の61%を占める最大輸出品目の衣料品及び同付属品は21%増の600億391万ドルとなった。内容的には、ニット製の衣料品及び同付属品の輸出が19%増の279億5,308万ドル、また布帛製衣料品及び同付属品の輸出は22%増の320億5,083万ドルとなっている。

織物類の輸出も、数量で13%増の150億8,664万メートル、金額で16%増の140億4,256万ドルと、衣料品ほどではないが高率の伸びを維持している。

内訳は、前年は苦戦した最大品目の綿織物が数量で16%増の49億8,163万メートル、金額で16%増の54億4,581万ドルと好調に推移、一方ポリエステル長繊維織物は数量で9%増の46億9,009万メートル、金額で9%増の35億8,808万ドルと依然増勢を維持しているが、EUのダンピング実施の影響もあり、伸び率は昨年と比べ大きく鈍化している。

その他の主要織物では、合繊短繊維織物が数量で14%増の30億4,909万メートル、金額で28%増の20億9,088万ドル、ニット生地が数量で14%増の85万307トン、金額で21%増の33億2,883万ドルとなっている。

糸関係の輸出は、特に合繊長繊維糸の増加が著しく、全体として数量で17%増の126万5,650トン、金額で17%増の45億3,748万ドルとなった。内訳では、最大品目の綿糸は、数量で9%増の43万5,079トン、金額で4%増の12億9,744万ドルと伸びは全体と比較して小さいが、順調に推移している。

続く合繊長繊維糸は国内での大增産を背景に、数量で73%増の34万3,971トン、金額で77%増の8億1,282万ドルと数量、金額共に飛躍的に増加しているのが注目される。合繊長繊維糸のうち、特にポリエステル長繊維糸は数量で94%増の23万5,303トン、金額で124%増の4億429万ドルとほぼ倍増しており、ナイロン糸も数量で46%増の7万1,779トン、金額で68%増の2億4,680万ドルと大幅な伸びとなった。合繊短繊維糸は、数量で2%減の

30万204トン、金額で9%増の8億8,386万ドルと他主要品目に比べて低調な推移となっている。

綿類の輸出は、綿花は減少しているが、羊毛及びポリエステル綿、スフ綿が大きく伸び、数量で40%増の33万484トン、金額で34%増の10億6,026万ドルと大幅に増加している。

<国別輸出状況>

地域別では、東アジアがシェア43%(1%増)を占め、西アジアが6%(20%増)、ヨーロッパが23%(52%増)、北米が17%(79%増)、中米が2%(3%減)、南米が2%(18%増)、アフリカが5%(23%増)、大洋州が2%(16%増)の市場構成となっている。

国別では、1位EU(159億3,166万ドル:62%増)、続いて日本(156億8,599万ドル:6%増)、米国(149億5,373万ドル:80%増)、香港(129億9,533万ドル:14%減)、韓国(37億699万ドル:3%減)、ロシア(32億6,204万ドル:54%増)の順で、この6大市場で輸出全体の68%のシェアを占めているが、予想されたとおり、特に2005年より枠が撤廃されたEU、米国向けが衣料品を中心に突出した伸びとなっている。また、ロシア向けもこのところ大きく伸びているのが注目される。

主要輸出品目別に国別輸出先を見ると、衣料品については、ニット製衣料品は、トップ市場は日本(60億979万ドル:9%増)、続いてEU(45億1,939万ドル:90%増)、米国(44億2,562万ドル:98%増)、香港(25億389万ドル:38%減)、韓国(9億7,984万ドル:22%減)、ロシア(9億5,869万ドル:37%増)の順となっている。また、布帛製衣料品の輸出先は1位が日本(70億2,994万ドル:1%増)、EU(68億4,467万ドル:65%増)、米国(60億3,224万ドル:90%増)、香港(29億2,163万ドル:25%減)、ロシア(14億7,382万ドル:61%増)、韓国(11億6,236万ドル:9%減)の順となっている。

織物類については、綿織物の主要輸出先は、香港(10億6,849万メートル:横ばい)、 Bangladesh(3億5,530万メートル:28%増)、ベニン(3億2,716万メートル:64%増)、韓国(3億2,628万メートル:21%増)、日本(2億6,258万メートル:4%増)、米国(2億3,799万メートル:72%増)、EU(2億870万メートル:62%増)の順となっている。

合繊短繊維織物は、第1位が香港(4億2,713万メートル:11%減)で、以下韓国(2億2,934万メートル:2%増)、アラブ首長国(1億4,895万メートル:5%増)、EU(1億4,382万メートル:304%増)、 Bangladesh(1億3,841万メートル:横ばい)、ミャンマー(1億3,558万メートル:50%増)の順となっている。

一方、ポリエステル長繊維織物の主要輸出先は、アラブ首長国(5億4,361万メートル:7%減)、EU(3億8,708万メートル:22%減)、イラン(3億7,136万メートル:4%減)、ブラジル(2億4,746万メートル:7%増)、香港(2億982万メートル:6%減)、パキスタン(1億8,353万メートル:49%増)、米国(1億6,301万メートル:34%増)、サウジアラビア(1億6,216万メートル:5%増)の順となっている。EUの減少は、2005年3月中旬に実施されたダンピング関税賦課の影響であるが、対照的に米国向けが激増しており、9月からその一部はセーフガード対象品目となり、2006年からは規制対象品目となっている。

2005年11月の中国の繊維品輸出入状況

単位:1000ドル

	輸 入				輸 出					
	2004 年実績		2005 年1月～11月		2004 年実績		2005 年1月～11月			
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額		
繊維品合計										
原料(綿)合計										
スフ綿	TON	23,001,764	3,891,010	21,135,105	TON	88,806,881	98,115,461	122		
合繊綿	TON	6,632,920	172,961	476,381	TON	929,294	330,484	140	134	
(ポリエステル)	TON	1,375,307	992,584	1,375,307	TON	24,285	15,731	133	127	
(アクリル)	TON	531,489	507,255	319,679	TON	204,579	225,432	162	185	
糸合計	TON	775,295	459,536	433,258	TON	143,411	189,060	170	190	
人絹糸	TON	3,715,144	1,717,755	3,935,831	TON	4,193,749	1,265,650	4,537,480	117	117
スフ糸	TON	83,019	29,258	83,019	TON	223,189	63,790	225,924	115	112
合繊長繊維糸	TON	93,698	32,122	93,698	TON	95,311	28,859	119,843	116	136
(ナイロン)	TON	1,544,504	714,316	1,544,504	TON	519,881	343,971	812,823	173	177
(ポリエステル)	TON	557,874	259,232	557,874	TON	166,602	71,779	246,799	146	168
合繊短繊維糸	TON	573,417	369,166	573,417	TON	207,686	235,303	404,292	194	224
綿糸	TON	416,877	172,837	416,877	TON	876,531	300,204	883,862	98	109
織物合計	TON	1,531,898	714,472	1,531,898	TON	1,336,555	435,079	1,297,443	109	104
絹織物	千LM	6,254,606	5,059,862	6,254,606	千LM	13,528,587	15,086,643	14,042,557	113	116
人絹織物	千LM	115,424	40,805	115,424	千LM	582,843	262,113	652,974	118	126
スフ織物	千LM	110,117	86,658	110,117	千LM	41,434	31,380	27,686	67	73
合繊長繊維織物	千LM	125,482	78,366	125,482	千LM	554,797	818,529	602,417	118	119
(ナイロン)	千LM	2,066,586	2,241,724	2,066,586	千LM	4,377,607	5,625,580	4,336,823	110	110
(ポリエステル)	千LM	612,423	797,863	612,423	千LM	121,257	230,379	126,801	98	116
合繊短繊維織物	千LM	1,063,056	1,102,705	1,063,056	千LM	3,669,996	4,690,093	3,588,075	109	109
綿織物	千LM	884,220	793,149	884,220	千LM	1,797,116	3,049,087	2,090,875	114	128
毛織物	千LM	2,174,494	1,612,068	2,174,494	千LM	5,251,183	4,981,632	5,445,807	116	116
不織布	千LM	610,479	77,059	610,479	千LM	504,203	92,599	491,833	106	107
タイヤコード織物	TON	408,535	113,385	408,535	TON	236,426	146,384	327,212	152	155
カーテッド織物	TON	79,860	22,211	79,860	TON	163,943	72,190	248,907	141	175
ニット生地	TON	984,618	292,959	984,618	TON	810,731	423,454	1,020,592	134	140
ニット製衣料	TON	1,813,034	463,329	1,813,034	TON	2,995,153	850,307	3,328,826	114	121
布帛製衣料		641,839		641,839		25,804,518		27,953,078		119
その他		792,205		792,205		28,983,243		32,050,829		122
		1,478,315		1,478,315		11,161,236		13,545,724		134

出所:中国海関統計

【輸 入】

—横ばいの 211 億 3,511 万ドルと停滞—

輸入については、2004 年は特に前半に綿花の輸入が激増したこともあり、大きく伸びたが、2005 年は、国内での増産もあり、総じて低調で、全体では前年同期比横ばいの 211 億 3,511 万ドルと停滞している。

この結果、中国の 2005 年 1～11 月の繊維品貿易収支の黒字額は前年比 29% 増の 769 億 8,036 万ドルとなり、巨額の外貨獲得産業となっている。このうち、主要国との繊維品貿易をみると、日本とは 123 億 401 万ドル、香港とは 113 億 3,225 万ドル、米国とは 130 億 6,110 万ドル、EU とは 146 億 2,270 万ドルの各々の黒字となり、この 4 カ国で中国の繊維品貿易全体の黒字額の 67% を占めている。

<品目別輸入状況>

輸入の品目別内訳では、まず綿関係は、数量で 6% 増の 390 万 8,248 トン、金額で 3% 減の 60 億 6,117 万ドルと数量増の金額微減となっている。このうち、合繊綿の輸入は、数量で 16% 減の 77 万 5,425 トン、但し、金額では 1% 増の 12 億 8,319 万ドルとなった。合繊綿の内訳は、アクリル綿が数量で 1% 増の 43 万 3,258 トン、金額で 14% 増の 8 億 1,887 万ドルと増勢で推移しているが、ポリエステル綿は数量で 33% 減の 31 万 9,679 トン、金額で 21% 減の 3 億 9,064 万ドルと大きく後退している。なお、年初は激減していた綿花の輸入は後半盛り返してきている。

糸類の輸入は、数量で 5% 減の 151 万 9,046 トン、金額で 2% 増の 37 億 1,514 万ドルと、数量減の金額微増となっている。品目別では、最大品目の綿糸の輸入は、数量で 10% 増の 71 万 9,765 トン、金額で 10% 増の 15 億 4,160 万ドルと数量、金額共に増勢推移となった。

合繊長繊維糸は数量で 16% 減の 56 万 2,562 トン、金額で横ばいの 14 億 1,230 万ドルで、この内訳は、大宗のポリエステル糸は数量で 23% 減の 26 万 7,531 トン、金額で 11% 減の 4 億 7,552 万ドル、一方ナイロン糸は数量で 4% 減の 23 万 570 トン、但し金額では 19% 増の 6 億 645 万ドルとなっている。また、合繊短繊維糸は数量で 13% 減の 14 万 1,477 トン、金額で 9% 減の 3 億 5,551 万ドルとなった。

織物類の輸入については、数量で 8% 減の 41 億 7,711 万メートル、金額で 3% 減の 53 億 9,780 万ドルとなっている。

品目別では、最大輸入品目の合繊長繊維織物は数量で 11% 減の 18 億 2,604 万メートル、金額で 1% 減の 18 億 3,933 万ドルとなった。内訳は、ポリエステル(長)織物が数量で 19% 減の 8 億 2,221 万メートル、金額で 3% 減の 9 億 3,040 万ドル、ナイロン織物が数量で 17% 減の 6 億 386 万メートル、金額で 4% 減の 5 億 3,624 万ドルとなった。綿織物は数量で 2% 減の 13 億 9,777 万メートル、金額で 1% 増の 19 億 1,629 万ドルと数量微減の金額微増、また合繊短繊維織物は数量で 11% 減の 6 億 3,609 万メートル、金額で 9% 減の 7 億 1,900 万ドルとなった。

その他品目では、ニット生地が数量で横ばい(41 万 8,990 トン)、金額で 4% 増(17 億 719

万ドル)、コーテッド織物は数量で9%減(23万9,726トン)、金額で7%増(9億2,867万ドル)となっている。

衣料品の輸入は、未だ額は少ないが、布帛製衣料品が2%増の7億3,088万ドル、ニット製衣料品は6%増の6億2,982万ドルと各々増勢推移となっている。

<国別輸入状況>

国別輸入では、日本(33億8,197万ドル:2%減)、台湾(30億7,711万ドル:5%減)、韓国(26億5,132万ドル:横ばい)、米国(18億9,264万ドル:19%減)、香港(14億9,100万ドル:6%減)、EU(11億9,073万ドル:16%増)がベスト6で、加工用の原材料を中心に、これら6カ国からの輸入で全体の66%を占めている。因みに、州別構成では、東アジアからの輸入が全体の72%(1%増)を占め、北米が9%(15%減)、欧州が7%(17%増)、大洋州が6%(13%増)となっている。

主要輸入品目別に国別輸入先を見ると、合繊綿の輸入は、金額ベースでは、日本(3億5,046万ドル:25%増)、台湾(2億7,758万ドル:21%減)、韓国(2億5,188万ドル:11%減)、EU(1億941万ドル:29%増)、タイ(1億196万ドル:18%増)の順で、この5カ国で全体の85%を占めている。また、数量ベースでは、台湾(19万9,107トン:36%減)、韓国(17万6,479トン:23%減)、日本(16万6,413トン:9%増)、タイ(7万1,147トン:3%減)、EU(5万4,874トン:13%増)の順となっている。

合繊長繊維糸の輸入は、金額ベースで、台湾(6億3,137万ドル:6%減)がトップで、続いて韓国(2億5,966万ドル:12%減)、日本(1億2,925万ドル:3%減)の順で、この3カ国で全体の72%を占めており、何れも減少推移となった。また、数量ベースでも、台湾(33万1,003トン:19%減)、韓国(8万9,654トン:27%減)、日本(1万9,315トン:6%減)と各々減少している。

織物類の輸入は、上記3国と香港の4カ国からの輸入が圧倒的なシェアを占めている。

合繊長繊維織物については、1位が台湾(8億2,729万メートル:18%減)、続いて韓国(4億1,292万メートル:13%増)、日本(2億3,067万メートル:6%減)、香港(1億1,943万メートル:29%減)の順で、この4カ国で全体の87%を占め、韓国を除き何れも減少推移となっている。

合繊短繊維織物の輸入も、台湾(2億677万メートル:15%減)、韓国(1億4,229万メートル:5%減)、日本(9,068万メートル:5%減)、香港(6,556万メートル:27%減)の順で、この4カ国で79%を占めているが何れも低調な推移となっている。

また、綿織物の輸入は、香港(3億7,510万メートル:2%減)、日本(1億3,899万メートル:9%減)、パキスタン(1億1,336万メートル:7%増)、台湾(1億585万メートル:22%減)、韓国(8,370万メートル:7%増)が主要輸入国となっている。



◎ 2005年1～9月の繊維品貿易・輸出は2桁増、輸入は減少推移

<輸出は13%増の64億8,169万ドルと2桁の増加>

インドネシアの繊維産業は、枠撤廃による中国品等との競合激化、また国内的には、人件費の高騰など諸経費のコストアップもあり、競争力の低下が懸念されているが、2005年1～9月の繊維品輸出は、枠が撤廃された米国向けを中心に好調に推移し、前年同期比13%増の64億8,169万ドルとなった。

地域別輸出をみると、シェア35%の北米は22%増、同25%の東アジアが14%増、同22%の欧州は1%増と、主要地域は欧州を除き好調な推移となっている。

主要輸出国は、米国(22億323万ドル:22%増)、EU(12億5,758万ドル:2%減)、日本(3億5,939万ドル:2%増)、アラブ首長国(2億3,073万ドル:13%増)、韓国(1億7,030万ドル:18%増)、マレーシア(1億5,246万ドル:5%増)、シンガポール(1億4,894万ドル:38%増)、トルコ(1億4,713万ドル:45%増)、香港(1億4,470万ドル:8%増)、サウジアラビア(1億1,472万ドル:30%増)の順で、EUを除き軒並み増加推移となっている。

品目別輸出を見ると、最大輸出品目は衣料品で、全繊維品輸出額の57%を占めているが、このうち、ニット製衣料品の輸出は23%増の13億7,755万ドル、太宗の布帛製衣料品は8%増の23億3,145万ドルで、特にニット製衣料品の伸びが目立っている。

ニット衣料品市場のベスト5は、米国(14億125万ドル:17%増)、EU(4億7,070万ドル:6%減)、日本(6,794万ドル:6%増)、アラブ首長国(4,953万ドル:34%増)、シンガポール(3,820万ドル:31%増)の順で、特に米国、EU向けで全体の78%と圧倒的なシェアを占めている。

布帛製衣料品市場のベスト5は米国(14億125万ドル:17%増)、EU(4億7,070万ドル:6%減)、日本(6,794万ドル:6%増)、カナダ(5,493万ドル:12%増)、アラブ首長国(5,230万ドル:2%増)で、ここでも米国、EU向けで80%と圧倒的なシェアを占めている。2005年から枠が撤廃された欧米向けには、中国の躍進による影響が危惧されたが、今のところ米国向けは健闘、EU向けは減少と対照的な推移となっている。

織物類の輸出も健闘しており、全体で13%増の9億4,857万ドルとなっている。2004年は大幅な減少となった合繊長繊維織物は4%増の3億6,619万ドルと堅調に推移している。

合繊長繊維織物市場のベスト5は、アラブ首長国(7,102万ドル:2%増)、サウジアラビア(4,335万ドル:56%増)、EU(4,308万ドル:8%減)、マレーシア(4,176万ドル:1%増)、日本(1,794万ドル:34%増)の順となっている。

その他の織物では、綿織物が16%増の3億1,186万ドルと大幅に増加、一方合繊短繊維織物も24%増の2億1,485万ドル好調な推移となっている。

2005年1～9月のインドネシアの繊維品輸出入状況

	輸 入						輸 出									
	2004年実績			2005年(1～9)			2004年実績			2005年(1～9)			前年比			
	数量	金額	単価	数量	金額	単価	数量	金額	単価	数量	金額	単価	数量	金額	単価	
繊維品合計																
原料(綿)合計	TON	1,718,546		TON	1,266,992		TON	6,481,693		TON	113		TON	126		
スフ綿	TON	8,106		TON	3,890		TON	91,989		TON	140		TON	143		
合繊綿	TON	167,360		TON	98,120		TON	50,797		TON	113		TON	120		
(ポリエステル)	TON	73,433		TON	37,079		TON	47,656		TON	118		TON	125		
(アクリル)	TON	88,045		TON	57,235		TON	621		TON	238		TON	392		
糸合計	TON	244,889		TON	85,874		TON	1,206,867		TON	111		TON	110		
人絹糸	TON	64,400		TON	15,974		TON	5,750		TON	108		TON	124		
スフ糸	TON	506		TON	196		TON	102,953		TON	110		TON	111		
合繊長繊維糸	TON	106,935		TON	42,577		TON	427,835		TON	118		TON	128		
(ナイロン)	TON	26,332		TON	7,154		TON	85,878		TON	87		TON	116		
(ポリエステル)	TON	50,816		TON	30,707		TON	328,531		TON	124		TON	133		
合繊短繊維糸	TON	16,781		TON	2,647		TON	444,172		TON	114		TON	113		
綿糸	TON	50,570		TON	20,317		TON	221,909		TON	90		TON	82		
織物合計		211,658			142,780			948,571			113			113		
絹織物	TON	136		TON	24		TON	8,587		TON	261		TON	285		
人絹織物		5,527			2,820		TON	23,971		TON	92		TON	92		
スフ織物		3,393			1,087		TON	18,984		TON	106		TON	106		
合繊長繊維織物		67,386			41,736		TON	366,192		TON	104		TON	104		
(ナイロン)		6,575			3,886		TON	2,396		TON	104		TON	104		
(ポリエステル)		43,569			27,633		TON	101,339		TON	95		TON	95		
合繊短繊維織物		24,785			16,067		TON	214,849		TON	124		TON	124		
綿織物		102,505			76,736		TON	311,862		TON	116		TON	116		
毛織物	TON	1,940		TON	100		TON	3,391		TON	2967		TON	2631		
不織布	TON	29,586		TON	9,060		TON	20,842		TON	123		TON	132		
タイヤコード織物	TON	36,931		TON	11,772		TON	69,685		TON	121		TON	147		
コート織物	TON	39,807		TON	7,904		TON	17,271		TON	91		TON	118		
ニット生地	TON	72,397		TON	9,076		TON	55,338		TON	88		TON	79		
ニット製衣料		17,015			17,194		TON	1,377,552		TON	123		TON	123		
布帛製衣料		11,229			20,943		TON	2,331,448		TON	108		TON	108		
その他		98,774			87,726		TON	328,326		TON	116		TON	116		

出所：インドネシア通関統計

綿織物の主要市場は EU(6,159 万ドル：2%減)、香港(3,460 万ドル：30%増)、バングラデシュ(2,211 万ドル：21%増)、日本(2,182 万ドル：5%減)、トルコ(2,028 万ドル：170%増)の順となっている。

また、合繊短繊維織物の主要市場は、EU(4,247 万ドル：7%増)、アラブ首長国(2,522 万ドル：155%増)、日本(2,431 万ドル：19%増)、マレーシア(1,832 万ドル：62%増)、中国(1,125 万ドル：8%減)となっている。

一方、原料関係の輸出も好調で、綿類は、スフ綿が大きく伸び、合繊綿もポリエステル綿を中心に健闘し、全体で 26%増の 1 億 7,672 万ドルとなった。

また、糸類の輸出は、綿糸は伸び悩んでいるが、合繊長繊維糸、合繊短繊維糸が大きく伸び、糸全体としては 10%増の 12 億 689 万ドルと 2 桁の増加を維持している。

<輸入は 3%減の 12 億 6,699 万ドルと減少推移>

輸入は、糸関係が大きく伸びているが、綿関係、織物関係は低調に推移し、全体として 3%減の 12 億 6,699 万ドルと減少推移となっている。

地域別では、シェア 54%を占める東アジアからの輸入は 1%増の 6 億 8,772 万ドル、シェア 20%の北米は 7%増の 2 億 5,225 万ドルと増加推移となったが、シェア 8%の大洋州は 9%減の 1 億 639 万ドル、シェア 7%のアフリカは 35%減の 8,593 万ドル、同じくシェア 6%の欧州は 13%減の 7,282 万ドルと各々後退した。

国別の主要輸入先は、米国(2 億 4,550 万ドル：6%増)、中国(1 億 6,778 万ドル：34%増)、台湾(1 億 2,053 万ドル：23%減)、豪州(1 億 164 万ドル：10%減)、韓国(8,869 万ドル：22%減)、日本(7,614 万ドル：2%増)、EU(6,321 万ドル：12%減)、タイ(5,980 万ドル：7%増)の順となっている。

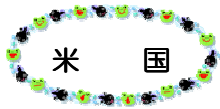
品目別では、綿関係では、合繊綿、綿花、羊毛等の天然原料の輸入が減少し、綿全体として 11%減の 6 億 5,354 万ドルとなった。糸関係では、合繊長繊維糸、特にポリエステル長繊維糸また綿糸、人絹糸の輸入が増大し、全体で 16%増の 2 億 581 万ドルとなった。

織物類の輸入は、綿織物は微増となったが、合繊(長・短)繊維織物の輸入が大きく減少し、全体で 11%減の 1 億 4,278 万ドルとなった。

その他では、ニット生地は 4%減の 5,185 万ドルと減少、一方タイヤコード織物は 78%増の 4,748 万ドルと増加している。

衣料品の輸入は、未だ額的には小さいが、ニット製衣料品が 35%増の 1,719 万ドル、一方布帛製衣料品は 192%増の 2,094 万ドルと主に中国からの輸入急増により、大きな伸びを記録している。

(注) 織物の統計は、例えば同じ合繊長繊維織物に分類される織物でありながら、その統計番号により、単位が KG と SM に分かれており、統一された数量が抽出できないため、金額ベースのみの統計となっている。



◎ 2005年11月の繊維品輸入・引続き大幅に増加

2005年11月の米繊維品輸入は41億9,000万SME(平方メートル換算)で前年同月比9.2%増となり、4カ月連続して9%以上の大幅な伸び率を記録した。

11月の輸入のうち、ノン・アパレル(糸、織物、その他繊維製品)は9.8%増、アパレルは8.3%増で、共に8%以上の大きな伸び率となった。

米国の繊維品輸入推移

単位：100万SME、%

	ノン・アパレル		アパレル		合計	
	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比
2000年	16,829	16.0	16,035	13.7	32,864	14.9
2001年	16,704	▲0.7	16,104	0.4	32,810	▲0.2
2002年	21,028	25.9	17,256	7.2	38,285	16.7
2003年	23,362	11.1	18,864	9.3	42,226	10.3
2004年	26,976	15.5	19,652	4.2	46,628	10.4
2005年	26,595	7.0	20,417	10.9	47,012	8.6
1月	2,247	5.0	1,646	8.5	3,892	6.4
2月	2,208	17.3	1,759	2.2	3,968	19.4
3月	2,340	4.9	1,728	7.0	4,069	5.8
4月	2,339	1.5	1,550	11.7	3,888	4.4
5月	2,544	8.3	1,704	24.2	4,248	14.2
6月	2,488	▲1.4	2,065	19.5	4,552	7.1
7月	2,352	0.1	1,991	7.3	4,344	3.3
8月	2,592	8.2	2,160	13.3	4,752	10.4
9月	2,489	12.0	2,127	8.9	4,617	9.6
10月	2,576	13.8	1,917	6.3	4,492	9.3
11月	2,420	9.8	1,770	8.3	4,190	9.2

注：前年比は増減、▲は減少。 出所：米商務省(DOC)

地域別輸入で、大きく増加した国は中国(37.7%増)、パキスタン(27.7%増)、インド(41.2%増)であり、一方、減少した国は台湾(26.2%減)と韓国(11.6%減)である。

2005年1~11月の輸入は470億1,200万SMEで前年同期比8.6%増となった。このうち、ノン・アパレルが7.0%増、アパレルが10.9%増となっている。

1~11月の主要地域別輸入状況は、以下の通り。

- アジア地域では、いわゆるビッグ4(中国、韓国、台湾、香港)からの輸入が28.1%の大幅増となり、特に中国は44.9%増と著しく増加し、そのシェアは前年同期の25%から33%に拡大し、供給国第1位の地位を堅持している。一方、韓国、台湾、香港は、中国の大躍進の煽りを受けて、いずれも二桁の大幅な減少となっている。
- アセアンからの輸入では、新興市場のベトナムとカンボジアが堅調に伸びているが、伝統市場のうち、タイとフィリピンが大幅な減少となり、アセアン全体としては0.9%の減少となった。
- NAFTA(北米自由貿易協定)パートナーのメキシコとカナダからの輸入は、それぞれ5.0%、7.9%の大幅な減少となり、この結果、メキシコは中国に次いで供給国第2位の地位を維持

しているものの、カナダは2005年7月以降、パキスタンに追い抜かれて第3位から第4位に転落している。なお、メキシコとカナダの両国合わせて6.0%減となっている。

また、CBIからの輸入は、太宗国のホンジュラスは順調に推移しているものの、エルサルバドルは若干増、ドミニカ共和国は減少となり、全体で1.3%増と僅かな伸びにとどまっている。

○ EU(15カ国)からの輸入は、主力のイタリーとドイツからの織物の不振が影響して、6.5%減となった。

○ 「その他地域」では、供給国第3位のパキスタンが10.2%増、同第5位のインドが22.3%増と、いずれも「ポスト・クオータ」のメリットを享受して大幅な増加となっている。

米国の繊維品輸入推移（主要地域・国別）

単位：100万SME、%

	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年 1～11月	前年 同期比
全世界	32,864	32,812	38,288	42,227	46,936	47,012	8.6
NAFTA	7,951	7,558	7,722	7,238	7,373	6,413	▲6.0
メキシコ	4,747	4,290	4,335	3,926	4,101	3,609	▲5.0
カナダ	3,204	3,268	3,387	3,312	3,272	2,804	▲7.9
CBI	3,788	3,704	3,830	4,046	4,168	3,834	1.3
ホンジュラス	1,046	1,032	1,099	1,165	1,209	1,156	5.2
エルサルバドル	757	768	817	895	895	823	2.1
ドミニカ共和国	859	773	743	758	772	670	▲4.4
ビッグ4	5,886	5,911	9,348	12,633	16,128	19,075	28.1
中国	2,218	2,211	4,963	8,288	11,662	15,570	44.9
韓国	1,312	1,383	2,032	2,097	2,301	1,844	▲13.3
台湾	1,233	1,224	1,391	1,356	1,302	993	▲18.3
香港	1,123	1,092	962	892	862	668	▲16.6
アセアン	4,228	4,390	4,766	4,980	5,140	4,714	▲0.9
タイ	1,317	1,308	1,316	1,098	1,114	966	▲5.7
インドネシア	1,053	1,165	1,215	1,151	1,275	1,253	5.9
フィリピン	929	916	817	794	711	587	▲11.3
ベトナム	35	33	358	827	905	871	3.8
カンボジア	265	389	474	561	673	669	8.1
EU(15カ国)	1,863	1,868	2,055	2,059	2,063	1,757	▲6.5
イタリー	562	521	518	533	462	356	▲14.4
ドイツ	359	457	551	484	479	415	▲6.1
その他	9,148	9,381	10,567	11,272	12,064	11,219	1.8
パキスタン	1,997	2,189	2,537	2,690	2,970	3,036	10.2
インド	1,248	1,250	1,545	1,666	1,915	2,164	22.3
バングラデシュ	1,131	1,169	1,150	1,110	1,109	1,217	18.9
トルコ	867	871	1,068	1,026	982	791	▲12.6

◎ 2005年12月の大手小売店販売、堅調に推移

米国の国際ショッピング・センター協会（ICSC）が纏めた「米チェーン・ストア販売動向レポート」によると、米大手小売店の2005年12月の売上高は前年同月比（既存店比、以下同じ）3.2%増と、引続き堅調に推移した。この伸び率は、前月（3.5%）を下回ったものの、前年同月（2.7%）を上回っている。また、クリスマス・歳末商戦が行われた11月と12月の2カ月の伸び率は3.5%で、前年同期の2.3%を大きく上回っている。

アナリストは、「11月末の感謝祭翌日から始まったクリスマス・歳末商戦は、特に12月の第4週・第5週（最後の2週間）頃から大幅な値引き販売に釣られた消費者が買い物に走り回ったことやギフトカードとインターネットの売上げ上昇によって、前年を上回る伸びを示した」と分析している。

米大手小売店の売上高の伸び率推移

単位：%

年 月	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005
1	8.2	5.7	4.8	5.2	1.8	5.9	3.6
2	7.6	6.0	3.1	6.2	0.9	6.8	4.9
3	9.9	2.1	1.7	6.4	-0.2	6.8	4.1
4	4.2	7.9	3.8	1.6	3.1	3.7	2.2
5	6.8	5.0	1.5	3.4	2.0	5.4	2.9
6	7.4	3.7	2.8	5.1	2.4	2.6	5.2
7	6.9	4.4	3.4	2.6	4.2	3.8	3.6
8	6.7	4.2	3.6	1.6	4.9	1.3	3.6
9	6.7	4.3	0.9	1.5	5.8	2.4	4.0
10	5.7	3.8	2.3	3.1	2.4	4.1	4.4
11	4.1	4.0	2.1	0.0	3.3	1.7	3.5
12	6.7	0.7	2.2	1.0	4.3	2.7	3.2
年間平均	6.7	4.0	2.6	3.1	2.9	3.8	3.7

注：伸び率は前年同月比（既存店比）の増減を示す。

ストア・タイプ別販売状況は、以下の通り。

○ 大手百貨店の12月の販売は、殆どの百貨店が順調に推移した。とりわけ、高級百貨店が好調で、ニーマン・マーカスが8.6%、ノードストロムが7.7%、サクスが2.4%のそれぞれ増加となった。

このうち、ニーマン・マーカスは、地域では南東部と西部、商品では女性用のコンテンポラリー・スポーツウェア、

デザイナー・アパレル、デザイナー・ハンドバッグ、装身具類が好調であった。

また、サクスでは、女性用ベター・スポーツウェア、ジュニア及び子供用アパレル、インティメート・アパレル、シューズがベスト・セール品目であった。

中級百貨店では、コールズが4.6%、フェデレーテッドが3.4%、J. C. ペニーが2.2%、ディラードが1.0%、それぞれ前年を上回った。このうち、J. C. ペニーでも、「12月の販売は、最後の2週間が特に好調であり、商品では女性用アクセサリ、子供用アパレル、ファミリー・シューズが最高の売上げを示した」と説明している。

○ 大手衣料品専門店チェーンの12月の販売は、一部を除き、全般的に順調に推移した。

若者向け衣料品専門店チェーンでは、アバクロンビー&フィッチの29.0%増を筆頭に、エアロポステールが11.4%増、アメリカン・イーグルが9.8%増、リミテッド・ブランドが3.0%増と、いずれも売上げを伸ばした。

他方、衣料品専門店チェーン最大手のギャップは9.0%の大幅な減少となった。同社は、値引き販売が少なくなり、利潤は僅かながら上昇となっているが、傘下ストアのギャップ・ストアとオールド・ネイビーが10%減、バナナ・リパブリックが5%減と何れも減少となった。

キャリアウーマン向け衣料品専門店チェーンは、アン・テラー・ストアが1.5%増、タルボットが1.1%増と、いずれも僅かな増加にとどまった。このうち、アン・テラー・ストアでは、セーター、ドレス、セパレート・アパレル、スペシャル・オケージョン用アパレルが売れ筋商品であった。

その他、婦人用プラスサイズ衣料品専門店のチャーミング・ショppsが5.0%増、メンズ・ウェア専門店のメンズ・ウェアハウスが7.3%増と、順調に推移した。

○ 大手ディスカウント・ストアの12月の販売は、ターゲットが4.7%増と順調に伸び、またウォル・マートも2.2%増と堅調であった。

このうち、ターゲットは、「12月の販売は、宣伝と値下げに引き付けられた買い物客がクリスマス・歳末商戦終了間際まで洪水のように押し寄せて来て、予定通りの満足な結果となった」と説明している。

米主要小売店の2005年12月の販売状況

単位：100万ドル、%

小 売 店 名	売 上 高	
		前年同月比
<百 貨 店>		
ディラード	1,270	1.0
フェデレーテッド	5,708	3.4
J. C. ペニー	2,839	2.2
コールズ	2,481	4.6
ニーマン・マーカス	631	8.6
ノードストロム	1,158	7.7
サクス	898	2.4
<衣料品専門店チェーン>		
アバクロンビー&フィッチ	525	29.0
アメリカン・イーグル	433	9.8
アン・テラー・ストア	267	1.5
エアロポステール	236	11.4
チャーミング・ショpps	396	5.0
ギャップ	2,400	-9.0
リミテッド・ブランド	1,911	3.0
メンズ・ウェアハウス	320	7.3
パシフィック・サンウェア	242	1.0
タルボット	222	1.1
<ディスカウント・ストア>		
ターゲット	8,420	4.7
ウォル・マート	40,826	2.2

組合関係の会議と催事

【2006年1月】

輸出入

I. 「2006年新年賀詞交換会」（関西・関東・中部地区）を開催。

輸出

I. 関西の繊維7団体の新年名刺交換会が開催。

II. 平成17年度第4回「組合運営に関するタスクフォース」を開催。

輸入

I. 各委員会で2006年品目別輸入見通し策定と来年度事業等を検討。

II. 貿易政策研究（タイ）の現地調査を実施。

4日（水）

輸出（大阪） 関西の繊維7団体の新年名刺交換会が帝国ホテル大阪にて開催され、主当番の輸出組合・小藪理事長が主催者を代表して年頭の挨拶が行われた。参加者は約430名であった。

5日（木）

輸出入（大阪） 輸出組合・輸入組合共催で「2006年新年賀詞交歓会（関西地区）」が輸出繊維会館 BM ホールで開催され、足立副理事長の挨拶の後、近畿経済産業局・大岡通商部長より祝辞、八木副理事長の音頭で乾杯が行われ、両組合員ほか200名が出席、歓談された。

6日（金）

輸出入（東京） 輸出組合・輸入組合共催で「2006新年賀詞交換会（関東地区）」が飯野ビル「キャッスル」で開催され、小藪理事長の挨拶の後、経済産業省製造産業局・平工次長より祝辞があり、北村副理事長の音頭で乾杯が行われ、両組合員ほか140名が出席、歓談された。

10日（火）

輸出入（名古屋） 輸出組合・輸入組合共催で「2006年新年賀詞交歓会（名古屋地区）」が名古屋観光ホテルで開催され、豊島理事の挨拶の後、中部経済産業局・内山地域経済部次長並びに名古屋税関・山本業務部長より祝辞があり、丸紅（株）名古屋支社・小槻繊維部長の音頭で乾杯が行われ、両組合員ほか80名が出席、歓談された。

11日（水）

輸入（東京） 貿易政策研究（タイ）現地調査の事前打合せが行われた。

15日（日）～27日（金）

輸入（バンコク） 貿易政策研究（タイ）現地調査を実施。

16日（月）

輸出入（東京） 大連国際服装有限公司・李叔基副主任ほか来所され懇談した。

17日（火）

輸出入（東京）日本繊維産業連盟の常任委員会、役員総会、懇親会が東京プリンスホテルで開催され、小簾理事長他、京浜地区の役員が出席された。

20日（金）

輸入（大阪）1. 「第13回絹委員会」（川村委員長）が開催され、①2006年絹製品輸入見通し②日中間の絹貿易の今後の動向③委員会事業について審議、意見交換が行われた。
2. 「第14回化合繊委員会」（清水委員長）が開催され、①2006年化合繊品目輸入見通し②情報交換について審議が行われた。

23日（月）

輸出（大阪）平成17年度第4回「組合運営に関するタスクフォース」（西田議長）が輸出組合会議室にて開催され、①国際協力銀行からの東アジア繊維輸出国の競争力に関する調査依頼、②中国における現地繊維商社会の設置について検討が行われた後、事務局よりブラジル繊維市場調査報告等を行った。

輸入（大阪）日本黄麻製品輸入協議会「第118回運営委員会」（塩田委員長）が開催され①インドジュートの輸入振興策②情報交換が行われた。

25日（水）

輸入（東京）「アパレル委員会正副委員長会議（在京）」（尾川委員長）が開催され①2006年衣類輸入見通し②2006年度委員会事業計画について審議が行われた。

26日（木）

輸入（東京）「関税評価対策G」（神谷議長）委員により、HDS他について打合せが行われた。

27日（水）

輸入（大阪）「第88回寝具インテリア委員会」（吉田委員長）が開催され①2006年じゅうたん類輸入見通し②「インテリア・ライフスタイル展」出展について審議の後、情報交換が行われた。

2月のスケジュール（2月1日現在）

2日（木）	輸入	（東京）	「第3回組合運営に関するタスクフォース」
6日（月）	輸出入	（東京）	「情報懇談会」
8日（水）	輸入	（東京）	「第139回企画委員会」
21日（火）	輸入	（名古屋）	「貿易実務の基礎-実践編」研修会（中部地区）
22日（水）	輸入	（大阪）	「貿易実務の基礎-実践編」研修会（関西地区）
24日（金）	輸入	（大阪）	「第81回中国アジア専門委員会」
28日（火）	輸入	（東京）	「貿易実務の基礎-実践編」研修会（関東地区）

一 輸入組合各委員会の 2006 年輸入見通し策定と 2005 年度委員会活動報告一

日本繊維輸入組合

当組合は 2 月 8 日(水)、第 139 回「企画委員会」(吉澤委員長)を開催し、昨年末より各委員会で検討の 2006 年輸入見通しと 2005 年度委員会活動について各委員長より報告があった。以下はその報告概要である。尚、本報告をもとに 2006 年の繊維製品全体の輸入見通しは集計の結果、3 兆 1,607 億円(対前年実績比 104.9%)と策定された。

1. 綿委員会(大塚委員長)

昨年は我が国の景気も回復し、衣料消費についてもクールビズ、ウォームビズなど明るい兆しがでてきましたが、綿糸、綿織物の輸入については、国内マーケットの縮小の影響を受けて減少となりました。特に純綿糸については、国内マーケットの縮小もさることながら供給国サイドの高値オプファー、為替も前年に比べ円安で推移したこともあり 7 月から 11 月までの 5 ヶ月間月ベースで 1981 年以來の 2 万梱台となる記録的な低水準輸入となり、年間では 2 桁パーセントの落込みとなりました。綿織物については、前半 1~6 月までは主力の中国品の品質向上もあり堅調に推移していたものの、元切り上げ以降は中国側の値上げ等で低調に推移しましたが、年間では 1%減の微減となりましたものの、ほぼ横這いに留まりました。

今年の見通しであります。景気回復は今年も堅調に推移すると思われませんが、糸、織物の輸入は海外での一貫生産が拡大し、国内市場の縮小は更に進むものと思われ、特に綿糸については、需要減による国内市況の更なる悪化、海外紡績からの出し値の上昇、為替の先行きに対する不透明感等により輸入は前年を更に下廻るものと思われ、数量ベースで 72,600 トン(400,000 梱)、前年比 12.5%減、金額で 272 億円、前年比 8.2%減を予想しました。

次に綿織物であります。主用途の需装品の不振、海外での一貫生産の定着、更には我国の染色工場の縮小、撤退等マイナス面もありますが、国内生産の縮小、輸入品の品質向上で衣料向け輸入が増大するものと思われ、数量ベースで前年並みの 5 億 SM、金額で 433 億円、前年比 9.9%増を予想しました。

また、人織(短)織物ですが、主力商品の T/C 織物が、昨年は価格的な問題で微減となり、ガムテープ用のスフ織物は、前年並みと健闘しましたが、これらは近年比較的安定した輸入が行われていることから数量で 2 億 9,700 万 SM の前年並みとし、金額で 189 億円、前年比 9.7%増を予想しました。

本年度の委員会活動については日本紡績協会、日本綿スフ織物工業組合等、主要な関係団体による「綿製品懇談会」で検討される、需給見通しのための輸入見通しの策定及び情報交換を行うべく、昨年同様委員会を適宜開催して参りたいと思います。

なお、5 月来日予定のインドの TEXPOCIL (COTTON TEXTILES EXPORT PROMOTION COUNCIL)の

ミッションの受入れに対して当委員会としてもできる範囲で協力したいと考えております。

2. 絹委員会（川村 委員長）

絹の輸入管理制度が 2004 年末でフェーズアウトされ、漸く、各社とも自由貿易のなかで新たな輸入形態による商品開発に取り組んでいるところであります。

そんななかで、2005 年の輸入実績をベースとしての 2006 年の輸入見通しであります。まず、絹糸は、生糸の代替として実需、用途に合った輸入が継続されるが、国内需要の減少、主要国である中国の原料価格高騰を背景に絹紡糸、紬糸を含め数量で、昨年対比 7.1%減の 2,800 トン、金額では、前年対比 16.1%増の 97 億円を見込みました。

次に絹織物であります。国内の和装用の需要減は否めず、また、洋装用の製品輸入へのシフトによって、輸入増が見込めないと予測していたが、2005 年の純絹織物が前年対比数量で 36.6%増となったことから既存のルートでなく、今までシルクが扱えなかったアパレルメーカーや他の業界が新たな天然素材として輸入に取り組んだものと思われ、国内生産減による補完も組み入れ 2006 年は交織・ノイル織物を含め、前年対比数量で 8.0%増の 1,720 万 SM、金額では、やはり原料価格の高騰を背景に 25.2%増の 115 億円と見込みました。

次に、委員会活動ですが、昨年 6 月にシルクの主要な生産地である山東省、江蘇省、浙江省を中心に市場調査の小組を派遣しましたが、従来のシルク貿易会社は集团公司として民営化され、扱い品目が粗原料だけでなく、繊維製品の輸出に力を入れており、小ロット、品質、価格に厳しい対日向け取引より、EU、インド向けが主流となっているようでした。詳細については、既に報告書が組合のホームページに掲載されていますのでご参照頂きたいと思えます。また、SILK WAVE□として「1974 年生糸一元化輸入制度発動後の輸入管理制度実施に係るその後のシルクのあゆみ」と題する歴代の委員長の寄稿を含め、30 年間に総括する冊子を委員会で取りまとめ発刊し、組合員、主な関係機関に配布しました。

次年度の事業としては、太宗を占める中国の原料事情が大きく変化してきていることから、日本への継続的、安定的な輸出が困難になるのではないかと懸念されることから、必要に応じて、本年も小人数で調査のための小組を派遣することも念頭に置いて考えていきたいと思えます。

3. 化合織委員会（清水 委員長）

昨年の化合織糸、織物の輸入は、数量ベースで、ポリエステル、ナイロン糸等の人織(長)糸が 6 年振りのマイナス、ポリエステル紡績糸、アクリル紡績糸の人織(短)糸も 2 年連続の減少となる等糸類の輸入は需要減、在庫増による国内市況低迷で低調に推移しました。

一方、ポリエステル織物を中心とする人織(長)織物は、中国の大增設と輸入品の品質向上もあり、大幅増となり前年の史上最高を更新しました。

2006 年見通しであります。原油高による原料高、製品輸入の定着による需要の減少等、輸入環境は厳しいものがありますが、まず、人織(長)糸は、主力のポリエステルは、昨年の需給調整の進展と合織メーカーの海外生産拠点からの輸入もあり増加するものと思われ、ナイロン、

人絹糸もメーカーの生産の縮小、撤退で増加が見込まれ、人織(長)糸合計では、数量ベースで、137,100トン(前年比105.0%)、金額で422億円(同104.7%)の増加を予想しました。

人織(短)糸であります。マイヤー毛布向けのアクリル紡績糸は、国内の在庫調整が進んでいることから増加が予想されますが、主力のT/C、T/R糸のポリエステル紡績糸、ガムテープ用のスフ糸は、工場の閉鎖、縮小により減少するものと思われ、人織(短)糸合計では、数量ベースで、43,200トン(前年比97.3%)、金額で、151億円(同96.6%)の減少を予想しました。

次に、人織(長)織物であります。裏地など衣料用とカーテン等のインテリア関連に供される主要品目のポリエステル、ナイロン織物は、我国の生産の縮小と最大の供給国である中国の品質の安定、向上もあり定番的なレギュラー商品の大幅な増加が予想され、また、ポリプロピレン等その他織物も我国で生産されていないことと、近年着実に伸びてきていることから増加を見込み、人織(長)織物全体では、数量ベースで、1億6,920万SM(前年比107.0%)、金額で151億円(同102.1%)の増加を予想しました。

昨年度の委員会活動は、適宜、委員会を開催し、輸入の現状分析、情報、意見の交換を行ってまいりましたが、本年度は以前に開催したこともある、委員のみならず若手も交えた交流研修会を委員会活動の活性化のため開催したいと思っております。

4. アパレル委員会(伊東 副委員長)

1. 2005年の衣類輸入状況

昨年の衣類輸入は、ニット、布帛、衣類・付属品類の合計で、約2兆3,700億円、対前年比5.7%増、輸入数量は、ニット・布帛の衣料合計で、35.6億枚(同、2.7%増)と、金額、数量とも過去最高を更新いたしました。

中国(数量91.4%、金額82.1%)一極集中堅持。以下、金額順に、イタリア(4.5%)、ベトナム(2.8%)、韓国(1.9%)、米国(1.3%)、タイ(1.2%)、フランス(0.9%)となっています。

昨年の日本市場は、クールビズ効果や秋冬の冷え込みで年後半には改善、復調化がみられましたが、結果として、①百貨店(9年連続前年割れ)②量販店(14年連続前年割れ)は減少し、一方、③有力専門店・セレクト店の台頭④SC・ショッピングモールの進出、出店増⑤ファッションビル(駅ビル)や「駅ナカ」新業態の出現⑥ネット・メディア通販拡大など、業態相互間に多様な動きがあるなかで、消費は二極化から、階層化とさらに多様化しており、デフレ脱却には至らずといった状況でした。アパレル及び流通再編課題では、ファンドの参入、M&A、提携、統合等々といった変動渦中にあります。

こうした市場動向に即し、OEM中心とした輸入供給は、ニット製衣類3.4%増、布帛製衣類1.1%増となりました。

2. 2006年の衣類輸入見通し

2006年の衣類輸入見通しは、アパレル委員会アンケート結果を基に、株価の上昇、景気回復、消費環境の好転や、在庫消化による需給調整により、増加基調の持続を予測し、衣類合計輸入額、約2兆4,800億円、2005年対比、約4.5%増と策定いたしました。

3. 委員会事業について

アパレル委員会は、FTA の進展やクォータ撤廃後の貿易環境、構造の変化に対応し、中長期の視野から広く海外の新しいファッションの芽・輸入供給先を調査すると共に日本市場を正しく紹介し、アパレル輸入の安定的発展を図ってゆく方針のもとに、海外ミッション派遣を事業活動の一環として実施しております。

昨年(05 年度)は、中欧のオーストリア、ハンガリーと、ブルガリアを訪問いたしました。訪問した各国とも、中国対策、対応強化ぶりが印象的でした。その成果は、調査報告書として組合員の皆様にご報告申し上げましたが、業界紙にも掲載(日本繊維新聞 9/20-30, 7 回シリーズ)されるなど思わぬ反響もいただいております。

本年(06 年度)も、この基本方針の下に精力的に活動を行うこととし、調査ミッションについては、派遣先(EU 及び周辺地域中心に)、実施時期(6 月ごろ)も含めて検討中であります。

5. 寝具・インテリア委員会(吉田委員長)

1. 2006 年輸入見通し

当委員会の主要取り扱い品目であります敷物類の輸入見通しにつきましては、去る 1 月 27 日開催の委員会におきまして、2005 年の輸入実績見込みと併せ検討いたしました。

先ず、機械織りカーペットにつきましては、ベルギーからの合繊製ウィルトンカーペットなどのピース物の輸入はほぼ横ばいに推移したが、中国からの輸入が引続き数量金額ともに前年対比約 130%と大幅に増加しました。

また、機械織り綿製カーペットにつきましては、インドからの輸入は在庫調整などから頭打ち微減に推移し、代わりに中国からの安価なラグや水周りマットなどが輸入され前年対比数量で 161%、金額で 146%と大幅に増加しました。

次に、タフテッドカーペットにつきましては、中国やタイなどから建築用途を中心に大幅に供給され、ホットカーペット用の輸入が好況に推移しました。

一方、自動車用カーペットにつきましては、ディーラーオプション用と生産ライン用の 2 つに多く分かれます。中国、ベトナム、インドネシアからのものはディーラーオプション用のピースもので、関税が無税ということで増加傾向に推移しているが、生産ライン用はロール状で主に米国から輸入され、国内産のものと比較すると品質が劣り、輸送コストなど余計に掛かることから国内産にシフトしているのが現状で、今後、米国からの輸入は減少すると考えられます。

2006 年の輸入見通しにつきましては、2005 年の輸入環境と大きな変化はないものと見込み、内外生産品の中国へのシフトは引続き加速され、数量で、引続き中国からの大幅な増加傾向は続く模様と思われ、ベルギーを始めとする他の主要国からは減少傾向にあり、全体では、数量で前年対比 116.0%の 8,230 万 SM、金額では前年対比 110.0%の 609 億円と策定いたしました。

カーペット全体の中国からの輸入シェアは数量で 67%、金額で 55%と 2005 年に初めてシェア 50%を超え、日米から中国への設備導入により、他の品目と同様に益々拡大していくと見込まれます。

2. 委員会活動について

(1) 2005年度活動状況

次に、当委員会の活動状況であります。昨年6月8日(水)から10日(金)の3日間、東京ビッグサイトに於いて開催されました「インテリアライフスタイル展」に、当委員会がブースを設け、出品を希望された委員会社5社がブース運営されました。

当委員会ブースに出品された商品は、各社ともに展示された商品は様々で、抗アレルギー、抗菌、防臭、保温、湿気をなくす高機能寝装品、遠赤外線を施した羽毛製品、「癒し」をテーマにした子供向け雑貨、リサイクル可能なカーペットに高機能を付けたタイルカーペットなどが出品された。

出品各社の意見としては、「ブース来場者も盛況で、展示したことによってその後の問合せが多数あった。」、「新商品をタイミングよく合わせ同展示会にて発表するなど実りあるものにしていきたい。」、「ライフスタイル全般の展示会なので日常では係わる機会の少ない企業とコンタクト出来た。」、「大手雑誌社からの取材により多大な宣伝効果あった」などと各社からは好評価を得、2006年度についても是非とも出品したい旨、組合としても是非配慮願いたいと思います。

(2) 2006年度活動計画

ご説明申し上げました通り、昨年の「インテリアライフスタイル展」への出品について当委員会メンバーから好評価を得たことによりまして、本年6月14日(水)から16日(金)の3日間、東京ビッグサイトに開催される同展示会に当委員会として参加、出品する予定で計画しております。

6. 黄麻専門委員会(塩田委員長)

1. 2006年輸入見通し

昨年11月29日開催の委員会において、輸入見通しを策定致しました。

当黄麻専門委員会の取扱い品目は黄麻織物の他に糸、紐、綱、包装用袋等となっております。

2005年の黄麻製品の輸入実績は、先日発表された速報ベースで、数量17,318トン(前年比99%)、金額1,847百万円(前年比108%)と数量は横這い、金額は増加しました。これは、黄麻製品の主要商品である織物の好調に加え包装用袋も堅調であったため、黄麻製品全体として順調な推移を示したものです。

2006年の輸入見通しについては、主要商品の織物及び袋が、PP、紙製等安値の代替品の進出等から、一方、電線介在糸、ワイヤーロープの芯、バインダー紐等産業資材分野でも依然として厳しい価格競合下にあり、夫々需要増加は見込めず、黄麻製品全体として、数量16,450トン(前年比95%)、金額17億8千万円(前年比97%)と数額ともに低調に推移するものと予測しました。

2. 主な委員会活動

次に委員会活動としては、ジュート紡績メーカーと共同で、環境と共存する繊維資材としてジュート製品の新規用途の開発及び販売促進を目的とする活動を続けております。昨年は委員会を5回開催し、事業の検討や生産地などの状況等の情報・意見交換を行いました。また、10月には

バンコクで開催の「エコプロダクツ国際展 2005」の視察ミッションを派遣し、ジュート製品の出展社並びにタイのメーカーなどとの意見交換をするなどして新規商品開発に努め、更に、ジュート製品PRのためのHPを継続し、販売促進に努めました。

3. 2006年の委員会活動

本年も引き続き紡績メーカーと共同で新規用途・市場の開拓・PR事業を中心とした委員会活動を行っていきます。

具体的には、HPの継続、エコ製品の展示会への出展・視察、ジュート製品の消費が増加しているベトナムなどへの調査ミッション派遣等今後委員会で検討の上、実施していきたいと考えています。

7. 中国・アジア専門委員会（井谷 委員長代理）

1. 昨年のアジア諸国からの輸入状況

昨年中国を主体としたアジアからの衣類の輸入状況を振り返りますと、我が国の厳しい衣料消費環境が続く中で、中国からの衣類輸入はトンベースで横ばい、金額ベースで多少増加しました。

昨年は衣類輸入全体のうち数量で9割（1～12月実績ベースで91.4%）、金額で8割（同82.1%）を占める中国は、華東地区を中心とした電力不足による工場操業への影響や、熟練工や一般ワーカーの雇用難などのリスクが懸念されましたが、輸入の趨勢は衰えをみせず、昨年の中国よりの付属品を含む衣類輸入総計は数量で95.8万トン（前年比99.6%）、金額で1兆9,494億円（同105.8%）、尚、衣類輸入は着数で32.6億着（同102.8%）でした。これは我が国の縫製工場の多くが既に中国へ移転しており対日衣類輸出に携わっていること、また、中国系アパレル企業へのOEM等での生産委託輸入も増加していることなどが背景としてあります。

中国以外のアジア諸国では（中国に比し数量、金額とも小さく、大きな隔たりがありますが）、ベトナムが数量、金額とも増加したほか、韓国・タイ等が金額ベースで前年比多少増加しました。

現在、中国への極端な一極集中化が進む現状下で、その見直しからチャイナプラスワンを模索する動きがありますが、現状では中国は我国に対する最大の衣類供給国として、他の国を大きく引き離してその重要度がますます増しております。

・尚、本年又は今後の中国の懸念材料としては

- ①人民元の再切上げの懸念。
- ②引続き華東地区を中心とした電力不足。
- ③沿海部での労働工賃の上昇等によるコストアップ。
- ④熟練工の不足、及び一般ワーカーの確保難。

などが挙げられます。

2. 昨年の委員会活動について

・次に昨年の当委員会の活動概要ですが、昨年は6回（1/31、3/4、6/2、7/22、9/14、12/2）委員会を開催しました。当委員会ではアジア諸国よりの衣類輸入の各社の取組み状況、国内

市場動向、中国を中心としたアジア諸国の現状、各社が抱える問題点などについて毎回、その時々状況を踏まえて、内容の濃い意見交換を行っています。

- ・更に昨年は ①年初よりの中国繊維品輸出税への対応 ②中国船社よりの「不明瞭な海上運賃付帯費用の請求」に対する対策などのほかに、委員会として専門家を招聘して・「最近の中国情勢について」（講師：丸紅(株)/西田特別顧問（当時））並びに・「中国の知的財産権問題と対策」（講師：有古特許事務所/中尾弁理士）についてそれぞれ講演を行ってもらい、有意義な意見交換を行いました。
- ・また、昨年 10 月には委員会として「中国西部地区視察調査ミッション」を派遣して、中国中西部の中心都市である成都・西安を訪問し、両地域の<繊維生産及び輸出基地としての可能性と課題><消費地としての可能性と課題>を中心に調査を行いました。このミッションは我々繊維輸入業界としては初の中国中西部地区への調査ミッションで、“百聞は一見にしかず”で我々が常に抱く「遅れた中西部」のイメージとは乖離して、両都市の予想外の発展に認識を新たにしました。尚、帰国後、当該ミッションの報告書を作成しましたが、本年 1 月にその詳細な内容が業界紙に連載されました。

3. 本年の当委員会の活動予定

- ・引続いて定期的に中味の濃い意見交換を行うと共に、委員各社の共通問題については解決に向けての糸口が見出せるような各種活動を行ってゆきたいと思います。
- ・尚、中国を中心としたアジアの供給国で発生する諸問題に対しては組合の他の委員会とも協力して、解決に向けた活動を行ってゆきたいと思います。
- ・更に、中国及びアジアの衣類を中心とした繊維品の供給国についても引続き研究、調査を行って行く予定です。

8. 欧州・北米専門委員会（事務局）

昨年の毛織物輸入実績は速報値ベースで、2,671 万平方メートルで前年比 100.3%、金額は 255 億円で前年比 100.9%と、ほぼ横這いながら 3 年続けて数量、金額ともに増加致しました。昨年の毛織物市場概況は、主要用途である紳士スーツ市場での在庫調整の進展、また中国の物流拠点整備、検品・補修体制の確立に伴い従来は国産生地を使用していた中・高級品が中国産織物で対応出来るようになってきた事などにより輸入が増加した一昨年からの流れを受け、上期は数量・金額ともに 10%程度増加したものの、下期は再び紳士スーツ市場で在庫過剰感が高まったことや、一昨年好調だったツイードの減少、前年の高水準輸入の反動などにより輸入が減少し、通年ではほぼ横這いとなりました。

品種別に見ると、主力の梳毛織物が 2,375 万平方メートルで前年比 103.2%、金額は 212 億円で前年比 105.8%と 3 年続けて数量、金額ともに増加、紡毛織物が 296 万平方メートルで前年比 81.9%、金額は 43 億円で前年比 82.0%と 3 年ぶりに数量、金額とも減少致しました。また国別では、数量では最大供給国である中国からの輸入が数量 0.9%増、金額で 0.7%増とほぼ横這い、数量では第 2 位、金額では第 1 位のイタリアからの輸入は数量で 0.2%減、金額は 2.2%増となっております。

当委員会が昨年 12 月開催の委員会で策定した本年の輸入見通しにつきましては、引き続き紳士スーツ市場での在庫調整、春夏のオーダーが慎重であった事などマイナス要因があるものの、

景況感の改善やこの冬の冷え込みによる需要増などプラス要因も見込まれ、また欧州品についてもユーロ高も落ち着きを見せていることなどから、数量・金額ともにほぼ前年並みの 2,700 万平方メートル、金額は 250 億円との見通しを立てております。

また、欧州及び北米からの輸入概況に関しましては、一部のラグジュアリーブランドは都心への出展攻勢が続くなど好調ぶりが伺えるものの、全般的にはここ数年のユーロ高によるコストアップなどで厳しい状況が続いています。セレクトショップにおいては雑貨関連が比較的好調であるものの総じて衣料品は苦戦が続き、特にブリッジラインのブランドでは年々競争が激しくなっております。

委員会の活動状況は昨年は 4 月と 11 月の 2 回、ヨーロッパを中心とするインポート生地の商品展示商談会である日本輸入繊維代理店協会（JITAC）主催の「ジタック（JITAC）ヨーロッパテキスタイルフェア」に協力・参画し、委員会としてブースを出展するなど毛織物を始め輸入品全般についての輸入情報提供を行いました。また、11 月には ウールマークカンパニーの高橋経済調査部長を講師に迎え「アパレル消費動向について」の情報・意見交換を行なうなど毛織物に限らず、製品、特にヨーロッパを中心としたブランド品の繊維消費動向などのテーマを取り上げ活動して参りました。

新年度の事業計画につきましては昨年の活動に加え、拡大する EU での繊維産業の動向調査、あるいは高級ゾーンの新たな生産拠点を調査・開拓するために旧東欧やトルコ、またはそれに準ずる地域へのミッション派遣及び引き続き市場動向についての情報交換などを検討しております。

9. 貿易制度専門委員会（神谷副委員長）

1. 2005 年度委員会活動状況

（1）環境・リサイクル対策グループ

当対策グループは経済産業省が事務局となり進められている「繊維製品 3R 推進会議」におきまして、拡大生産者責任を負う貿易業者として日本貿易会と共同で提出しておりますアクションプランに基づき活動を行っております。

アクションプラン実施状況として、

① 非営利団体への協力を掲げております。2005 年 7 月 29、30 日の 2 日間、福島県いわき市の NPO 法人「ザ・ピープル」を訪問し、NPO 法人格取得後の活動上の問題点等についてヒアリングするとともに再度作業場などを視察し、ザ・ピープルへの協力事業として何が望ましいか意見交換した結果、回収された中古衣料品が回収ボックスから盗難にあっていることから回収ボックスの改良版が必要であること、また、タイ山岳民族への支援物資として中古衣料品が提供されておりますがその輸送費用について協力願いたい旨の要請があったことから、これらの 2 件の費用につきまして拠出させていただきますのでご承認頂きたく存じます。

② 同アクションプランにおきまして、繊維製品 3R の実態を調査することを掲げております。本年度につきましては東南アジアへの中古衣料品の輸出が最も多い韓国に調査団を 3 月中に派遣する予定でおりますのでご承認頂きたく存じます。

(2) ロジスティクス対策グループ

次にロジスティクス対策グループについてご報告いたします。

当対策グループは、国内外の貿易制度上の問題を改善すること目的に活動しております。

① 「関税暫定措置法第8条」について

当対策グループは、「平成18年度関税改正要望」にて、関税暫定措置法第8条で輸入が認められている革製品に対し、革製衣類を製造するのに必要な輸出原材料の追加を当局へ要望しましたが関係業界との調整がつかず、本年度における改正には至りませんでした。次年度に付きましても引続き暫8について組合員の皆様が不効率と思われる点につき改善を要望していく予定です。

② 「中国船社・海上運賃に係わる付帯費用改善要望」について

本件につきましては、2004年11月に中国交通部及び中国船東協会、中国主要船社3社を訪問し、これら付帯費用の撤廃と海上運賃の適正化を求め、また、「適正化要望書」を中国船社の日本代理店に提出し改善を求めました。

しかしながら、中国側の姿勢は依然として変わらず、他の委員会でも問題として取上げられたことから、当委員会におきましても各社の現状をご報告頂き、今後どのような対応が望ましいか検討中であります。

(3) 関税評価対策グループ

関税評価対策グループでは、グループメンバー各社による税関の事後調査などの関税評価に関する情報交換や問題の共有化を図ると共に、組合員への直接的貢献を目的に時々の諸問題への対応を検討して参りました。

昨年は「クーリエ便によるサンプル等の評価漏れへの対応」や「ホット・デリバリー・サービス・チャージ問題」など共通課題への取り組みを協議致しました。特にホット・デリバリー・サービスに関しましては、昨年8月に「運賃に係わる費用」として課税価格に算入するよう神戸税関から連絡が出された事から、輸入業者にとって新たなコストアップに繋がる事でもあり、業界として統一した対応が必要との意見で一致し、12月に神戸税関との意見交換会を実施致しました。神戸税関の見解を確認するとともに、輸入業者の立場から「当該サービスは課税対象外である国内での費用であり課税には納得しかねる」旨意見を述べたところ、「国内に係わる費用である事が分かれば課税価格には含めずとも良い」との返答を得る事が出来ました。これを受け、今後は「国内費用」であることが客観的に証明出来るよう、主要な船社や代理店などとの意見交換会に向け準備を進めております。

また、神戸税関との意見交換会では、この他にも ①加工再輸入減税制度での各税関官署の運用・解釈の統一、 ②簡易申告の適用対象貨物の拡大、などについて意見交換を行い輸入手続きの簡素化を要望して参りました。

今後は、開催頻度を高めるとともに、神戸税関はじめ大阪税関などとの意見交換会の開催や主要税関の港湾設備見学などを検討しております。

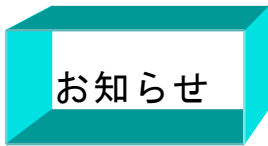
2. 研修会の開催

委員会といたしましては、組合員各社の新入社員を対象とし、東京、大阪、名古屋にて、各所轄税関担当官に講師を依頼し、輸入手続、評価申告、加工再輸入減税制度等の研修会を開催しました。

3. 2006年度活動計画案

2006年度の活動に関しては、業界の問題や組合員が直面する問題に関し引き続き各対策グループで対応し活動の深化を図っていかうと考えております。

以 上



◎ 繊維品の包括保険の「保険責任期間終了」と「保険期間延長手続き」（輸出組合）

以下に掲げる保険申込書の「保険責任期間」が、平成 18 年 3 月末日に終了しますので、延長を必要とするものがありましたら、必要書類を添付の上、輸出組合に申請してください。
 保険責任期間が「6 ヶ月」延長されます。

- * 平成 17 年 9 月に新規提出された決済条件が、「前受け」のもの
- * 平成 17 年 3 月に新規提出された決済条件が、「前受け」以外のもの

（注） 当初の保険責任期間は「前受け」6 ヶ月、「前受け以外」12 ヶ月となっております。

1. 提出期限：平成 18 年 3 月 20 日（月）
2. 提出書類：① 貿易一般保険包括保険（繊維品）
 保険期間延長依頼書 2 通
 （用紙は輸出組合事務局で準備しています。）
 ② 延長を必要とする包括保険申込書のコピー .. 1 通
3. 提出先：輸出組合・総務部 (☎06-6201-1832)

なお、延長手続きの FAX による申込みも可能です。（FAX：06-6201-1814）
 保険期間終了の保険申込書番号は以下の通りです。

前受けに係る 2005 年 9 月度受付保険申込書番号

受付局区分 記号	大 阪	東 京	名 古 屋
JT-05	105697~ 106219 ----- 507341~ 508333	102504~ 102771	100267~ 100287

前受け以外に係る 2005 年 3 月度受付保険申込書番号

受付局区分 記号	大 阪	東 京	名 古 屋
JT-05	101563~ 102345 ----- 501750~ 502910	100632~ 100941	100084~ 100131

◎ 「マケドニア」向け他 6 カ国の保険引受方針変更（輸出組合）

このたび独立行政法人日本貿易保険（NEXI）から、“「マケドニア」（国コード：244）向け他 6 カ国の繊維包括保険の引受方針及び国倍率を変更し、実施日より適用する”旨連絡がありましたので、通知します。この結果、以下の取扱いとなります。

1. 条件付引受停止国から条件付引受国に緩和（2カ国）

<国コード>	<国名>	<国倍率>	<引受限度額>	<ILC取得条件>
244	マケドニア	6.0倍（旧 8.0倍）	10億円	<有り>
554	ザンビア	8.0倍（据置）	5億円	<有り>

2. 国倍率の緩和（4カ国）

<国コード>	<国名>	<国倍率>
233	サイプラス	2.0倍（旧 3.0倍）
242	スロベニア	1.0倍（旧 2.0倍）
245	チェコ	1.0倍（旧 2.0倍）
246	スロバキア	1.0倍（旧 2.0倍）

3. 国倍率及び引受条件（条件付引受国）

<国コード>	<国名>	<国倍率>	<引受限度額>	<ILC取得条件>
151	アルメニア	6.0倍（旧 8.0倍）	10億円(旧 5億円)	有り（据置）

* 国倍率（地域差料率）とは、非常危険てん補に係る保険料計算に適用される基本料率に対して掛けられる倍率です。

なお、ユーザンスが6ヶ月を超えるものは、ベルン・ユニオンのルールに基づき、従来どおり引受けられません。

4. 実施日： 平成 18 年 2 月 3 日

お知らせ

「貿易実務の基礎—実践編」研修会開催のお知らせ

日本繊維輸入組合

《中部地区》

- 日時：2006年2月21日（火） 10時より16時
- 場所：名古屋商工会議所 第3会議室
住所：名古屋市中区栄2-10-19 名古屋商工会議所ビル3階
電話：052-231-2861（名古屋事務所）

《関西地区》

- 日時：2006年2月22日（水） 10時より16時
- 場所：輸出繊維会館BM大ホール
住所：大阪府中央区備後町3-4-9
電話：06-6202-5575（大阪事務所）

《関東地区》

- 日時：2006年2月28日（火） 10時より16時
- 場所：東京ファッションセンター（TFTビル） 東館9階 908研修室
住所：東京都江東区有明3-1 TFTビル
電話：03-5530-5010

講師：大谷 巖 氏「ジェトロ認定 貿易アドバイザー」

内容：貿易実務実践編としたケーススタディ（価格計算、売価の確定、契約書の発行、信用状の発行など
営業担当者の実務を全員参加型で実習する）。

*必携筆記用具、電卓をご持参ください。

研修内容及び時間配分（予定）

10:00-12:00 前回(貿易実務の基礎研修会)の復習(引き合いの方法、取引条件、契約書、信用状の役割、荷為替手形の特性、その他)

13:00-16:00 事例に基づき書類の作成。

参加費： 無料（1社で何名様でもご参加できます。）

その他： 昼食用意あり。

お問い合わせ：関東地区：TEL:03-3270-0791 東京事務所 竹内

関西地区：TEL:06-6202-5575 大阪事務所 宮崎

中部地区：TEL:052-231-2861 名古屋事務所 鬼頭

お知らせ

－ 2006年3月の輸入通関手続相談窓口開設日－

2006年3月の輸入通関手続相談窓口は下記要領により開設します。申告手続、品目分類、関税評価、暫8手続等々通関業務諸問題についてご相談の向きはご連絡下さいますようお願い申し上げます。

記

1. 開催日 2006年3月8日（水）及び3月22日（水）
2. 場所 日本繊維輸入組合 東京本部
3. 時間 午後1時より午後5時まで
4. アドバイザー 片山 喬次

（元東京税関関税評価部門特別価格審査官）

5. 連絡先

Tel 番号 03（3270）0791

Fax 番号 03（3243）1088

E-Mail 0023@j t i a . o r . j p（片山）

なお、事前の面談申込みや相談窓口開設日以外のお問合わせ、ご質問につきましては、事務局がお取次ぎ致しますので、本件事務局担当：国信までご連絡下さい。

以 上

組合員情報

○ 組合員の脱会

（輸 出） 有限会社 大阪三崎産業（2006年1月24日付け）

取引照会・展示会案内

〔原文は、輸入及び展示会は輸入組合・市場対策室(Tel:06-6202-5575)に保管していますので、必要な向きはご照会下さい。 また、輸出の詳細は同組合のホームページ(<http://www.jtea.or.jp>)をご覧ください。〕

<p>輸入</p> <p>No.4316 台湾 デニム生地</p> <p>会社名 : EVEN WAY INTERNATIONAL COMPANY LIMITED.</p> <p>住所 : 台北市塔城街36-1号3階</p> <p>担当者 : 許氏(日本業務担当)</p> <p>F A X : 02-2555-3591</p> <p>T E L : 02-2555-3540</p> <p>品 目 : Denim Fabrics.</p>
<p>輸入</p> <p>No.4317 インド 家庭用品</p> <p>会社名 : TAMIZHN TEX</p> <p>住所 : No.20(7), Ramanujam Nagar South, Anna Nagar, Karur-639 002, India</p> <p>担当者 : Mr. R. Marappan</p> <p>F A X : 91-4324-24-0755</p> <p>T E L : 91-4324-24-8245</p> <p>品 目 : Table Linen, Kitchen Linen, Bed Linen, Curtains, Furnishing Fabrics, etc.</p>
<p>輸入</p> <p>No.4318 インド 綿二次製品</p> <p>会社名 : SRI PATHI FAB</p> <p>住所 : 1/1.E, Rajivgandhi, Nagar, Vengamedu, Karur-639 006, Tamilnadu, India</p> <p>担当者 : Mr. N. Anand, Proprietor</p> <p>F A X : 91-4324-22-3203</p> <p>T E L : 91-4324-22-3203</p> <p>品 目 : Cotton Homefurnishing & Made Ups..</p>
<p>輸入</p> <p>No.4319 インド 衣料品等</p> <p>会社名 : VENUBHAI ENTERPRISES PRIVATE LIMITED</p> <p>住所 : B-604, Shree Balaji Apartments, Plot No.37, Sector-6, Dwarka, New Delhi-45, India</p> <p>担当者 : Mr. Manjul Thapliyal, Marketing Manager</p> <p>F A X : 91-95124-234-8736</p> <p>T E L : 91-95124-234-5657</p> <p>品 目 : High Fashion Garments, Accessories, etc.</p>
<p>輸入</p> <p>No.4320 パキスタン 織物、家庭用品</p> <p>会社名 : PAK INTERNATIONAL</p> <p>住所 : 119-Commercial Plaza, O/S Karkhana Bazaar, Faisalabad, Pakistan</p> <p>担当者 : Mr. Mohammad Kaleem Ahmad, Export Manager</p> <p>F A X : 91-41-62-9128</p> <p>T E L : 92-41-64-2010</p> <p>品 目 : Cotton and Blended Fabrics, Pillowcases, Bedsheets, Bedspreads, etc.</p>

《海外》

No.1061 INDIA

テキスタイル・インディア2006

(Tex-Styles India 2006)

会期：2006年3月1日(水)～4日(土) 9:30～18:30
会場：インドニューデリー プラガティ・マイダン展示会場 ホール6 & 7
主催：インド貿易振興局
出展社数：約300社
展示商品：糸、織物、インテリア用品、アクセサリ、服飾雑貨等
問い合わせ先：インド貿易振興局東京事務所(Tel:03-3436-5060)

No.1062 CHINA

上海国際衣料・繊維展示会

(Shanghai International Clothing & Textile Expo)

会期：2006年3月15日(水)～17日(金) 9:00～17:00
会場：Shanghai New International Expo Centre (Hall1 1～5)
主催：Shanghai Textile Technology Service & Exhibition Centre
後援：Shanghai International Fashion Culture Festival Committee
出展社数：海外20カ国を含め約1000社
展示商品：紳士・婦人・子供・幼児用各種衣類、糸、織物、家庭用品、アクセサリ、副資材等
問い合わせ先：Shanghai Textile Technology Service & Exhibition Center(Tel:86-21-6227-4788)

No.1063 CHINA

インタータキスタイル北京春夏展示会

(Intertextile Beijing,Apparel Fabrics)

会期：2006年3月28日(火)～30日(木) 9:00～17:00
会場：Beijing Exhibition Centre, Beijing
主催：メッセフランクフルト株式会社
出展社数：約300社
展示商品：ファイバー、糸、各種織物、刺繍レース、アクセサリ等
問い合わせ先：メッセフランクフルト(株)香港事務所(Tel:852-2802-7728)